

西六反割遺跡

—一般国道3号植木バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査—

2018

熊本県教育委員会



西六反割遺跡 遠景



西六反割遺跡 全景



(上) 西六反割遺跡 基本土層
(下) 西六反割遺跡 出土遺物

序 文

熊本県教育委員会は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所による一般国道3号植木バイパス改築事業に伴い、予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

西六反割遺跡は調査工程により1・2区に分割し、平成28年11月から平成29年3月まで発掘調査を実施し、平成29年度に整理作業を行い報告書にまとめました。

今回の調査により、隣接する飛田遺跡群と同様の縄文時代後晩期の遺構・遺物が検出されました。その結果、当時の人々の生活を示す貴重な資料が確認されました。

今回の報告が、過去の調査成果と併せて今後の調査、研究に活かされることはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習などに幅広く活用されることを切に希望します。

最後になりますが、本調査を実施するにあたり、ご理解、ご協力をいただきました国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所、熊本市教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成30年3月31日
熊本県教育長 宮尾千加子

例　言

- 1 本書は、熊本県熊本市北区四方寄町に所在する西六反割遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所から依頼を受けて、国道3号植木バイパス改築事業に伴う記録保存のための発掘調査として、平成28年度に熊本県教育委員会が実施した。
- 3 現地での発掘調査は、第1章第2節の調査担当者が担当し、株式会社明測量開発（現場代理人：諸富成香 調査補助員：島浦健生）に補助業務委託した。
- 4 現地での4級基準点及びメッシュ杭設置業務は㈱アイコンサルタントに委託した。
- 5 遺構・土層デジタルトレース作成及び遺物の水洗い・注記・接合作業は、株式会社明測量開発に委託した。
- 6 遺物の実測・写真撮影及びデジタルトレース作成は、第1章第2節の整理担当者が行った。
- 7 本書の執筆は、文化財調査第一係伊藤精一が担当した。
- 8 本書に掲載した資料は、熊本県文化財資料室に保管している。

凡　例

- 1 本書で使用している方位は、座標軸を基準とした北を示している。
- 2 報告書に掲載した実測図の縮尺は、遺構配置図1区1／200・2区1／100、土層断面図1／100、遺構個別図1／40である。
- 3 土層及び土器の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）に準拠している。
- 4 写真の縮尺は任意である。
- 5 遺物の実測は一部を除き原則として原寸大で行い、報告書に掲載した実測図の縮尺は挿図ごとにスケールを示した。
- 6 遺構については、検出順に番号を付け略号（S）を付した。

西六反割遺跡

—一般国道3号植木バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告—

卷頭図版

序文

例言・凡例

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の組織	
第3節 調査の方法と経過	
第2章 調査	6
第1節 地理的環境	
第2節 歴史的環境	
第3章 調査の成果	12
第1節 調査地の基本土層	
第2節 遺構・遺物	
(1) 1区遺構・遺物	
(2) 2区遺構	
第4章 総括	26
第1節 検出遺構について	
第2節 出土遺物（土器）について	
第3節 西六反割遺跡の歴史的位置づけについて	

写真図版

報告書抄録

奥付

挿図目次

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| 第1図 熊本県域における西六反割遺跡の地形図
(縮尺任意) | 第11図 西六反割遺跡1区土坑S11平面・断面図 |
| 第2図 西六反割遺跡位置図 (S=1/5000) | 第12図 西六反割遺跡1区F-5グリッド遺物出土状況 |
| 第3図 西六反割遺跡周辺遺跡地図 (S=1/25000) | 第13図 西六反割遺跡遺物実測図-① |
| 第4図 西六反割遺跡1区基本土層図 | 第14図 西六反割遺跡遺物実測図-② |
| 第5図 西六反割遺跡2区基本土層図 | 第15図 西六反割遺跡遺物実測図-③ |
| 第6図 西六反割遺跡全体図 | 第16図 西六反割遺跡2区遺構配置図 S=1/200 |
| 第7図 西六反割遺跡1区遺構配置図 | 第17図 西六反割遺跡2区東壁及び南壁土層断面図 |
| 第8図 西六反割遺跡1区東壁及び南壁土層断面図 | 第18図 西六反割遺跡2区粘土塊土坑S01平面・断面図 |
| 第9図 西六反割遺跡1区土坑S09平面・断面図 | 第19図 西六反割遺跡2区土坑S13平面・断面図 |
| 第10図 西六反割遺跡1区土坑S10平面・断面図 | 第20図 西六反割遺跡座標測地点図 S=1/400 |

表目次

- | | |
|-------------|----------------------|
| 表1 周辺遺跡地名表1 | 表3 西六反割遺跡出土遺物観察表(土器) |
| 表2 周辺遺跡地名表2 | 表4 西六反割遺跡出土遺物観察表(石器) |

写真目次

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 卷頭図版1 西六反割遺跡 遠景 | 図版4 |
| 卷頭図版2 西六反割遺跡 全景 | 1. 2区調査区南壁土層断面 N→ |
| 卷頭図版3 西六反割遺跡基本土層(上)
西六反割遺跡出土遺物(下) | 2. 2区焼土範囲検出状況 W→ |
| 図版1 | 3. 2区焼土範囲検出状況 N→ |
| 1. 西六反割遺跡1区完掘状況 | 4. 2区焼土範囲検出状況 W→ |
| 2. 西六反割遺跡2区完掘状況 | 5. 2区粘土塊土坑S01焼土範囲検出状況 N→ |
| 図版2 | 図版5 |
| 1. 1区調査区南壁土層断面 N→ | 1. 2区粘土塊土坑S01焼土範囲検出状況 W→ |
| 2. 1区土坑S09検出状況 S→ | 2. 2区粘土塊土坑S01炉内掘削状況 W→ |
| 3. 1区土坑S09土層断面 E→ | 3. 2区粘土塊土坑S01土層断面 W→ |
| 4. 1区土坑S09土層断面 N→ | 4. 2区粘土塊土坑S01土層断面 N→ |
| 5. 1区土坑S09遺物出土状況 N→ | 5. 2区粘土塊土坑S01完掘状況 W→ |
| 図版3 | 6. 2区土坑S13検出状況 E→ |
| 1. 1区土坑S09遺物出土状況 N→ | 7. 2区土坑S13土層断面 E→ |
| 2. 1区土坑S09完掘状況 N→ | 8. 2区土坑S13完掘状況 E→ |
| 3. 1区土坑S10検出状況 N→ | 図版6 |
| 4. 1区土坑S10検出状況 E→ | 1. 1区土坑S09出土遺物(1)
F-5Grid出土遺物(2) |
| 5. 1区土坑S10土層断面 S→ | 2. 1区出土遺物(石鏃) |
| 6. 1区土坑S10完掘状況 E→ | 3. 1区出土遺物(石刀・削器) |
| 7. 1区土坑S11土層断面 S→ | |
| 8. 1区土坑S11完掘状況 N→ | |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

一般国道3号植木バイパス改築事業を国土交通省が計画し、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所が工事を実施することとなった。

事業予定地に係る埋蔵文化財の試掘調査について、平成26年9月30日付け国九整熊二調第46号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、熊本県教育庁教育総務局文化課は、平成26年12月24・25日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構・遺物等の存在を確認した。試掘調査結果は、平成27年2月20日付け教文第2181号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長及び熊本市教育長あて通知された。あわせて当該地は、熊本県遺跡地図に「西六反割遺跡」(927)として新規記載、平成27年10月20日付け教文第1435号が熊本県教育長から熊本市教育長あて通知された。

周知の埋蔵文化財包蔵地「西六反割遺跡」における土木工事等の実施について、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所及び熊本県教育庁教育総務局文化課が協議した結果、工事の実施に際しては記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。

埋蔵文化財発掘の通知について、文化財保護法（昭和25年法律第214号）第94条第1項の規定により、平成28年4月28日付け国九整熊二調第7-2号で国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長から熊本県教育長あて通知があり、工事着手前に発掘調査が必要であると平成28年5月26日付け教文第313号で熊本県教育長から国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所長あて通知された。

平成28年10月17日付け教文第1407号で、熊本県教育長あてに文化財保護法第99条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」を提出し、熊本県教育委員会が調査主体となって発掘調査を実施した。現地における発掘調査は、平成28年11月1日から平成29年3月31日まで実施した。その発掘調査面積は約1,800m²である。

発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第100条第2項で準用する同法第100条第1項の規定により、文化財の発見について平成29年3月15日付け教文第2489号で、熊本県教育長から熊本北警察署長あて通知した。

第2節 調査の組織

本調査は、平成28・29年度に熊本県教育庁教育総務局文化課が調査を担当した。その調査組織は、以下のとおりである。

【平成28年度・発掘調査（1区・2区）】

調査主体者 宮尾千加子（熊本県教育長）

調査責任者 平井貴（熊本県教育庁教育総務局文化課長）

調査総括 村崎孝宏（課長補佐）

調査指導 長谷部善一（主幹兼文化財調査第一係長）

調査担当 廣田静学（主幹）、伊藤精一（文化財保護主事）

【平成29年度・整理作業】

調査主体者 宮尾千加子（熊本県教育長）

調査責任者 岡村郷司（熊本県教育庁教育総務局文化課長）

調査総括 村崎孝宏（課長補佐）

調査指導 長谷部善一（主幹兼文化財調査第一係長）

整理担当 伊藤精一（文化財保護主事）、廣田静学（主幹）

唐木ひとみ（整理補助員）、前田康行（整理補助員）

第3節 調査の方法と経過

平成28年12月6日から調査委託により、1区（面積1,200m²）および2区（面積600m²）の埋蔵文化財発掘調査を実施した。1区については重機による表土剥ぎを行い、その後、国土座標軸を利用したグリッド（10m×10m）を設定し遺物包含層を（2層から3層）まで人力によって掘り下げた。調査内容は、生活面の確認、精査、遺構の検出、検出遺構の観察、測量、図面作成、写真撮影および光波による遺物の取り上げ等を順次繰り返し行った。

出土遺物は、包含層から出土したものについてはグリッドごとに一括取り上げを行った。遺構から出土した遺物については全て座標値・標高値・出土層位名・遺構名を記録し取り上げた。検出遺構および土層観察用ベルト等の実測は、10分の1縮尺、20分の1縮尺を適宜組み合わせながら実施した。写真撮影は、中判カメラ・35mmカメラを使用し、モノクロ・カラーリバーサルフィルムに記録した。調査区全体を含む高所からの遺物出土状況の写真撮影は、ローリングタワーを使用して実施した。

今回の調査区は、公道を挟み東側を1区、西側を2区とした。調査区内に、10m×10mのグリッドを設置し、東西方向にアルファベットを、南北方向に数字を振りその組み合わせによりグリッド番号とした。調査は、重機による表土掘削のち、手掘りで作業を進めた。遺構検出後は、慎重に調査を進め、実測図作成、写真撮影を行った。

基本土層は、1区では、周辺遺跡でも確認されているようなこの地域の基本的な堆積であった。しかし、2区ではそれとは大きく異なり、客土より下の層は乱れていた。アカホヤによく似た土が厚く堆積しており、そのすぐ下にはロームが確認できた。検討の結果、アカホヤに似た層は、アカホヤと色調や質感は似るが混入物が有るため、台地縁辺部谷地内に堆積したシルト質粘質土と判断した。

1区について

調査区は約1,200m²で、北から南へ、東から西へと傾斜している。1区北側ではアカホヤ層の堆積が薄く、上部は客土が厚く堆積していた。遺構は確認できず、遺物の出土量も少なかった。1区の中央付近になると、アカホヤ層の堆積も良好となり、遺物の出土量も多くなった。1区の遺物の出土傾向は、丘陵上部にあたる東側に集中した。当初は、遺構に伴う集中かと考えたが、明確なプランを確認することができなかった。トレンドによる確認を試みたが結果は、土層が調査区東側でややくぼみ、そこに多くの遺物が溜まるような形となっていた。

1区出土の遺物について

1区では、縄文時代後期のものが殆どであった。遺物の点数はそれなりにあったが、接合できるものは少なく、また、遺構に伴うものはほとんどなく、流れ込みによる遺物と判断した。

2区について

調査区は、約600m²で、1区同様に北から南へ、東から西へと傾斜している。遺物は、Ⅲ層より縄文土器の小破片が多く出土した。どの破片もローリングを受けており、本来の位置は保っていない。

2区出土の遺物について

2区では、1区に比べると出土遺物は少なく、土器については、ローリングを受けた小破片であった。そのため、時期を判断できるようなものも少なく、実測に耐えられるようなものもなかった。石器については、黒曜石の石鏃が数点出土した。

調査日誌

2016年（平成28年）

12.14 機材搬入及び調査区整備。

12.15 雨のため現場作業中止。

作業員への安全講習を実施した。

12.16 1区排土置き場の動線確保作業及び1区南側の表土剥ぎ後の精査実施。黒ボクとアカホヤ層を確認した。一部に表土が残っており、再精査が必要。1区は全体的にカクランもなくアカホヤの残りは良い。試掘トレンチが3ヶ所確認した。

12.19 1区・2区メッシュ杭打ちを行った。1区・2区調査区環境整備作業。1区北では遺構の可能性がある部分が2か所見られた。2区では焼土ブロックがまとまって出土した。白色粘土は伴っていない。焼土周辺の土はやや暗く、埋土の可能性はある。今後注視が必要。

12.20 1区北試掘トレンチの掘り返しを実施。2ヶ所を掘り上げ両方ともロームまで達していた。土層断面を確認し、床は黒二ガかアカホヤが揃っている。断面に柱穴が数基かかっていた。1区北で遺構検出。黒二ガに黒ボクの埋土の遺構となるため慎重に実施した。少量の縄文後期の遺物が出土している。1区南II層（包含層）の掘削を実施。調査区の2/3ほど残っている。縄文後期の遺物が出土しており、石器も2点出土した。遺物はまとまりなく出土し、包含層全体から出土している。

12.21 1区北の遺構検出を実施。柱穴状に10ヶ所確認できた。1区北遺構検出状況写真撮影後、検出遺構の半蔵をしたが、土層断面の上方のみがまだらに黒く、斜めに掘り込んでいた。埋土が乱れている等の理由により樹根と判断した。1区北では遺構の確認はできなかった。南ではII層掘削を進め、縄文後期の土器が多数出土した。石器も数点出土している。しかし、遺物の出土の出方にまとまりは確認できなかつた。2区では試掘坑掘り返しI層確認。2区での遺物の出土は少ない。

12.22 雨のため現場作業中止。工程会議の実施。

12.23 引き続き1区南のII層の掘削。次第にIII層の明るい色が見え始めた。それに伴い遺物の量が減ってきていた。2区の試掘坑掘り返しとII層を掘削。試掘坑で土層の確認をしたが、1区では確認できなかつた土が、III層と思われる土の下に見られた。色調はIII層とよく似ているがやや明るい。粘質はローム層のようである。もう少し掘り下げて1区との層の

対応を確認したい。現場の今後の方針の確認。

12.27 雨のため現場作業中止。

2017年（平成29年）

1.10 1区北はカクラン・試掘坑の掘削が終了し配置図作成を行った。1区南はII層の掘削を実施。F-5グリッドに遺物の出土が集中した。遺物の大きさは10cmほどのものが多く、土色土質に違いはないが、その下に遺構があるかは判断できていない。遺物の時期は縄文後期である。II層のかなり上方より、1点山形文の破片が出土した。2区のII層掘削では、B-4グリッドから多量の遺物が出土した。しかし、破片は小さくどれも2~3cmであった。時期は縄文後期であった。2区の試掘トレンチを掘り返しはアカホヤ（III層）らしき土で止まっていたが、III層か判断するため50cm掘り下げたがロームは出てこず二ガが出てきた。そのためIII層と判断し、1区から2区にかけてかなり地形が急に下がっていることが確認できた。

1.11 重機による表土剥ぎ。

1.12 重機による排土置き場整備。

1.13 1区表土剥ぎ後の清掃。2区焼土集中部検出写真撮影後、2区東壁に沿ってトレンチを設定した。トレンチを10cm程下げたところで大きな焼土塊が2か所確認できた。間は50~60cmである。トレンチ内の焼土範囲外の土はやや明るい色調でアカホヤと思われる。焼土範囲の土は暗い色調とはなるが明暗の差はあまりない。焼土範囲内の土が埋土であるとする根拠はまだない。断面での立ち上がりも確認できない。遺物は小さな土器片が少量出土する。時期は縄文と思われる。2区の焼土塊がなんであるかの判断はできない。炉穴にしては検出面が高すぎるし形態が不十分である。来週中にはトレンチをもう少し下げるか別の方法で何なのか性格をつかみたい。

1.16 1区カクラン除去及びII層掘削。E-3グリッドにある試掘坑には焼土の集中部があり柱穴状の落ちがある。掘り返して土層確認が必要。現状では落ちが明瞭ではないが焼土は確認できる。掘り込み面はアカホヤより上としか今のところわからない。炉穴かと思ったが根拠が少なく検討中である。2区焼土集中部のII層を掘削。平面で見られた焼土塊の数が増えた。土も焼土塊を中心に赤みを帯びてきた。遺物は、土器の小破片が少量出土してい

- る。今のところプランは確認できていない。
- 1.17 1区南側はアカホヤ（Ⅲ層）が広範囲に広がるが、中央付近はⅡ層がまだ残っている。Ⅲ層が広がるところでは遺構が見られないかと思ったが、遺構の埋土と思われる土は確認できなかった。2区は引き続き焼土集中部のⅡ層掘削を行う。掘り下げるごとに焼土塊が出土しているが、いまだに何なのかわからない。焼土塊も集中して出土するが何かを形成しているようには見えない。予想だが焼土塊はまだ下から出てくるようだ。今、出土している焼土塊のそばを少し竹べらでとると塊が出土するためである。むやみに焼土塊を追いかけると遺構本体を確認せずに掘削することになりそうなので、現状で止め検討することにした。遺物は焼土塊集中部の外側から出土する傾向にある。
- 1.18 1区Ⅱ層掘削。並行してカクラン除去。
Ⅱ層掘削の際に遺物が多く出土した。縄文後期の遺物である。また、出土の仕方にまとまりがあり、その部分の土はやや暗い色調となる。そのため、その部分の清掃を行い、遺構検出を試みた。円形のプランがあり遺構ではないかと思われる。ただしプランは引いたものの明瞭でない部分もありトレンチを入れ土層断面での確認をしっかりとしていく予定である。このような遺構と考えられる部分が3ヶ所確認できた。その他に柱穴・土壙と思われるものが数ヶ所出ている。2区焼土集中部の検出写真を再度振りなおした。焼土塊について炉・カマド・炉跡・製鉄跡などの意見が出たがどれも根拠が薄い。
- 1.19 1区Ⅱ層掘削・遺構検出。南側の2軒は遺構と想定し今後進めていくことにした。ただし遺構というには不確実なところがあるため、今後はトレンチの土層断面でしっかりと検討することが必要。1区の試掘トレンチにかかる焼土について、黒二ガからの掘り込みで炉穴の可能性があるためトレンチを入れて確認したが、30cm西に全く焼土も埋土も確認できなかった。2区の焼土集中部をS01とした。何であるかの判断は現状ではできていない。得られた情報を整理し、時期や構造をもっとしっかりと把握し分析していく。掘り方は次のように進める。
- ・焼土塊をだし、写真と実測。実測は焼土塊の表現をしっかりと。
 - ・焼土塊を残し断ち割る。中から出た遺物に
- 注意。
- ・必要であれば焼土塊を断ち割る。
 - ・粘土が貼つてあるかの確認、どこまでが生きた焼土塊なのかを判断する。1基なのか2基なのか判断する。
- 1.20 雨のため現場作業中止。工程会議実施。
- 1.23 1区遺構検出 S02・03・04・05・06・07 検出状況撮影。S02・03 トレンチ掘削。
- 1.24 1区 S02・03・05・06・07・08 掘削。S09 土層断面・1区北側完掘状況・S08・10・11 検出状況撮影。S06は樹根と判断し欠番。
- 1.25 1区 S02・03・04・06・07・08・12・柱穴掘削、Ⅲ層掘削。遺構配置図・Ⅲ層地形測量 S12 検出状況撮影。十字型石器出土状況撮影、S09 土層断面実測。2区 S13 平面図・断面図、S12 は焼土塊が表面にあつただけで埋土には全くなかつたため欠番。
- 1.26 1区 S02・03・08・09・11 掘削。Ⅲ層掘削。S09 検出状況撮影。S02・S03・S08 は硬化面、立ち上がりが確認できず、遺構ではない。S09 は立ち上がりが確認でき焼土を含む層から縄文後期の遺物が1点出土した。S11は焼土を含む層は上のほうだけだったが、遺構としてはロームに掘り込んでいる。かなり深い柱穴状の遺構となる。遺物は出土していない。1区で十字型石器出土、状況撮影。2区 S01 掘削、Ⅱ層掘削。
- 1.27 1区 S11 掘削、Ⅲ層掘削。S09 からは縄文後期の遺物が出土しているが遺構の底からは浮いた状態になる。S03の遺物は深跡が横倒しになった状態で出土している。鉢周辺に掘り込みは確認できなかった。S09・S03 遺物出土状況撮影。2区Ⅱ層掘削、S01 焼土範囲図作成、S01 焼土出土状況撮影。生きている焼土塊は見た目より少ないように思える。面を持ちしっかりと座っているものは中央付近だけのように思えた。
- 1.30 雨のため現場作業中止。
- 1.31 1区 E・F グリッドⅡ層掘削。S09・10・11 掘削。S09・11 土層断面実測。S09 遺物出土状況実測。S09・11 土層断面写真撮影。
2. 1 1区 F-4・5グリッド・S09 掘削。S10 土層断面実測。完掘状況写真撮影。
2. 2 1区 F-4・5グリッド掘削・深堀トレンチ掘削。S09・11 完掘写真撮影。S10 土層断面写真撮影。2区Ⅱ層・S01・13 掘削。S01 焼土範囲実測。焼土内部を掘削したが、思ったより深く40cmほど下がった。更に壁は面を持

- つ焼土があり「炉壁」という形であった。非常にきれいなつくりだが崩れ落ちた壁も中から出土している。焼土の中からは縄文土器や土師器の破片が出土した。S13 検出写真撮影。
- 2.3 1区F-3・4グリッド・S10掘削。S10完掘状況写真撮影。2区II層・S13掘削。S13土層断面実測・写真撮影。
- 2.6 1区F-3・4グリッド掘削。S10平面実測。2区S01土層断面・S13平面実測。S13完掘写真撮影。S01以外の遺構については終了した。S01については以下のように結論づけた。今後の進め方は、内部の土層断面の写真・実測。内部に落ちている焼土をあげてから生きている壁をきちんとだし再度写真・実測する。・縄文の遺構ではない・縦型炉のようである・アカホヤを掘り込んだ遺構である・上屋がある可能性があり、周辺の柱穴を確認する・下にカーボンベッドが出る可能性もある。
- 2.7 1区E-3・4グリッド掘削。調査区東壁土層断面写真撮影。2区II層・S01・深堀トレンチ掘削。焼土の中央黒い土の真ん中を通るようにポイントを設定した。掘り上げると焼土の壁は全体的に東側によっており、土層断面は焼土の西壁のすぐそばに設定されていた。焼土の壁は円形になると想っていたが、方形に近くなつた。焼土が多く出ているが、きれいな壁にはならず部分的に面があり、つながらない。また、底面と思われる所があるが、これも壁とはつながらない。少しずつ形状が見えてきたが、まだわからない。
S01土層断面写真撮影。
- 2.8 1区E-3・4グリッド掘削。調査区南壁写真撮影。深堀トレンチ南壁土層断面写真撮影。2区S01粘土塊出土状況写真撮影。深堀トレンチ南壁土層断面写真撮影。
- 2.8 雨のため現場作業中止。
- 2.10 雪のため現場作業中止。
- 2.13 1区E-3・4・5グリッド掘削。S10平面レベル入れ。2区S01掘削。掘り方があるか確認するためトレンチを設定した。S01を中心いてやや暗い部分が広がるため、それが掘り方のプランではないかと考えたが平面のラインが引けなかった。そのため、トレンチを設定し土層断面で確認しようとしたが土層断面でも確認できなかった。掘り方を持たないようである。トレンチ掘削と並行して炉の内側も掘削した。内側に落ちている粘土塊を取り上げ掘り進めているが壁も底も確認できない。ある程度掘削するとやや白っぽいべたつとした土が壁のように立ち上がり底へと続く。これが遺構の壁と底になると思われる。掘削している土はやや暗い色調で、焼土塊とカーボン粒が混じる。
- 2.14 現場作業中止。
- 2.15 1区E・F-3・4・5グリッド掘削。調査区東・南壁土層断面実測。2区S01掘削。炉内側は徐々に狭くなり底に近づいているように思えるが、まだ暗い焼土と炭化物粒を含む土が残っている。また、トレンチを粘土塊まで延長した。すると、粘土塊から2~3cm程度外側に掘り込みのような立ち上がりがあった。まだ2ヶ所でしか確認できていないが、掘り込みがあり、その壁に粘土を貼った作りかもしれない。S01平面実測。
- 2.16 1区E・F-4・5グリッド掘削。調査区東壁土層断面実測。2区S01掘削。トレンチを延長し粘土塊も断ち割った。粘土塊は遺構の上部にのみありブロックでみられた。粘土塊の焼け具合をみると、外から火を受けたもの、内から火を受けたものなど統一性がなかつた。また、貼られた粘土がそこで焼かれたようではなく、ブロックの間に土が入れられているようであった。断面の状況から、その場で火を使ったものではなく、粘土塊を入れ込んだようである。根固めのようなものだと判断した。調査区東・南壁土層断面写真撮影。
- 2.17 現場作業中止。
- 2.20 空撮準備としてブルーシート撤収。
- 2.21 1区空撮のための清掃。2区S01・空撮のための清掃。S01土層断面追記。S01土層断面写真撮影。調査区東・南壁土層断面実測。深堀トレンチ土層断面実測。
- 2.22 空撮・撤収準備。2区S01平面実測。S01完掘状況写真撮影。
- 2.23 現場作業中止。
- 2.24 現場作業中止。
- 2.27 撤収準備。
- 2.28 現場撤収。

第2章 調査

第1節 地理的環境

西六反割遺跡が所在する熊本市北区四方寄町は、熊本市北部に広がる洪積台地上に位置し、肥後台地あるいは熊本台地と呼称される。さらに、当該台地は植木町一帯を植木台地、京町一帯を京町台地に細分される。西六反割遺跡周辺の台地は、東西を南流する坪井川と井芹川に挟まれ両台地の中間に位置している。この坪井川は、小糸山の西の谷に源を発し、いくつかの小河川を合わせながら南流し、飛田付近で掘川とともに熊本城下に至る。当該遺跡周辺の台地のほぼ中央を南北に国道3号線が走る。同路線上に設置された水準点から、当該台地は北区植木町一つ木を最高所として、それぞれ北と南へしだいに低くなる。

この周辺の地質は、阿蘇熔結凝灰岩を基盤とする火山灰台地である。当該地域にみられる阿蘇熔結凝灰岩は、20cm以下の浮石礫と2cm前後の黒曜石の小礫を多数含む灰白色の火山性堆積物で、上層部は著しく風化している。四方寄町周辺では、厚さ1.5cm程度の赤褐色粘質土の下に阿蘇熔結凝灰岩の風化層が厚く堆積していることが知られている。この風化層は、淡褐色の火山灰砂のつまつた黄色の浮石礫層で脆くて崩れやすい。同様の堆積は、台地一帯で広く認められる。

第2節 歴史的環境

縄文時代

草創期 当該期に属する遺跡は、県北域での出土事例として、早期の遺物群と混在する形で爪形文土器1点が確認された菊池市無田原遺跡（木崎1995）、柳又型の有舌尖頭器が出土した熊本市古閑北遺跡（野田、濱田1999）があげられる。

早期 当該期の遺跡では、同じく県北域での事例として、大型の長方形配石遺構や石組炉（139基）、集石遺構、焼土坑（炉穴）、竪穴住居跡、陥落穴などの遺構とともに、押型文を施した注口部を持つ壺形土器をはじめ多くの土器群とトロトロ石器や岩偶などを含む多くの石器群が検出された瀬田裏遺跡（緒方1993）、集石遺構、炉穴などの遺構とともに、押型文土器・撲糸文・条痕文土器・寒ノ神式土器などの土器群に伴い多くの石器類が出土した中後迫遺跡（松村1978）、ワクト遺跡（古森）、無田原遺跡（木崎1995）、瀬田狐塚遺跡（村崎・水上2014）など多くの遺跡が確認されている。瀬田狐塚遺跡や秣野遺跡（稻津2000）では、円筒形条痕文土器と伴って炉穴が検出されている。

前・中期 この時期の遺跡数は早期に比べ減少し、出土する遺物量も少ない。前期の曾畠式土器、中期の阿高式土器が出土したワクト石遺跡や瀬田裏遺跡、前期の轟式土器、曾畠式土器が出土した七野尾遺跡、中期の船元式土器がまとまって出土した岡田遺跡（江本1990）などがある。

後・晚期 太郎迫遺跡（竹田1999）では、竪穴建物跡とそれに伴う西平式土器、太郎迫土器、三万田土器、鳥井原式土器、御領式土器、天城式土器が出土し、後期中葉から晩期前半にかけての土器型式が多量に認められる。また、これらの土器型式に伴って多くの土偶が出土している。

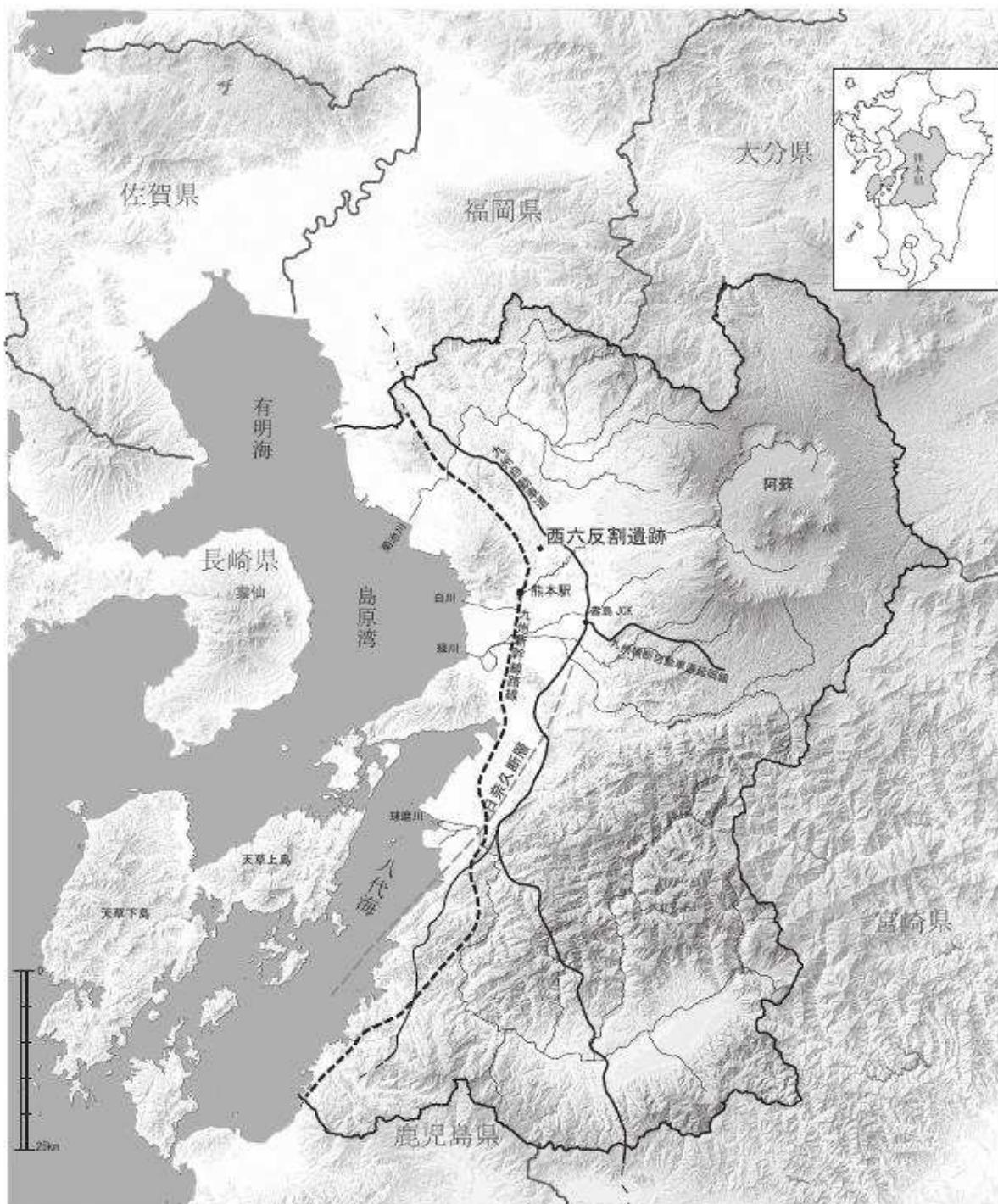
三万田東原遺跡では、竪穴建物跡とそれに伴う辛川I式土器、辛川II式土器、太郎迫式土器、三万田式土器、鳥井原式土器、御領式土器、黒川式土器、山ノ寺式土器が出土し、後期前半から晩期後半に至るまでの土器型式が継続している。また、これらとともに70個以上にもおよぶ土偶が検出されている。大鶴B遺跡では竪穴建物跡15軒、土坑26基とともに後期後半から晩期前半の土器が大量に出土し、また、十字型石器、Y字型石器、打製石斧、磨製石斧、石鏃などの石器が出土している。ワクト遺跡では、後期から晩期の土器群とともに多量の石器類や15体の土偶が出土している。

弥生時代

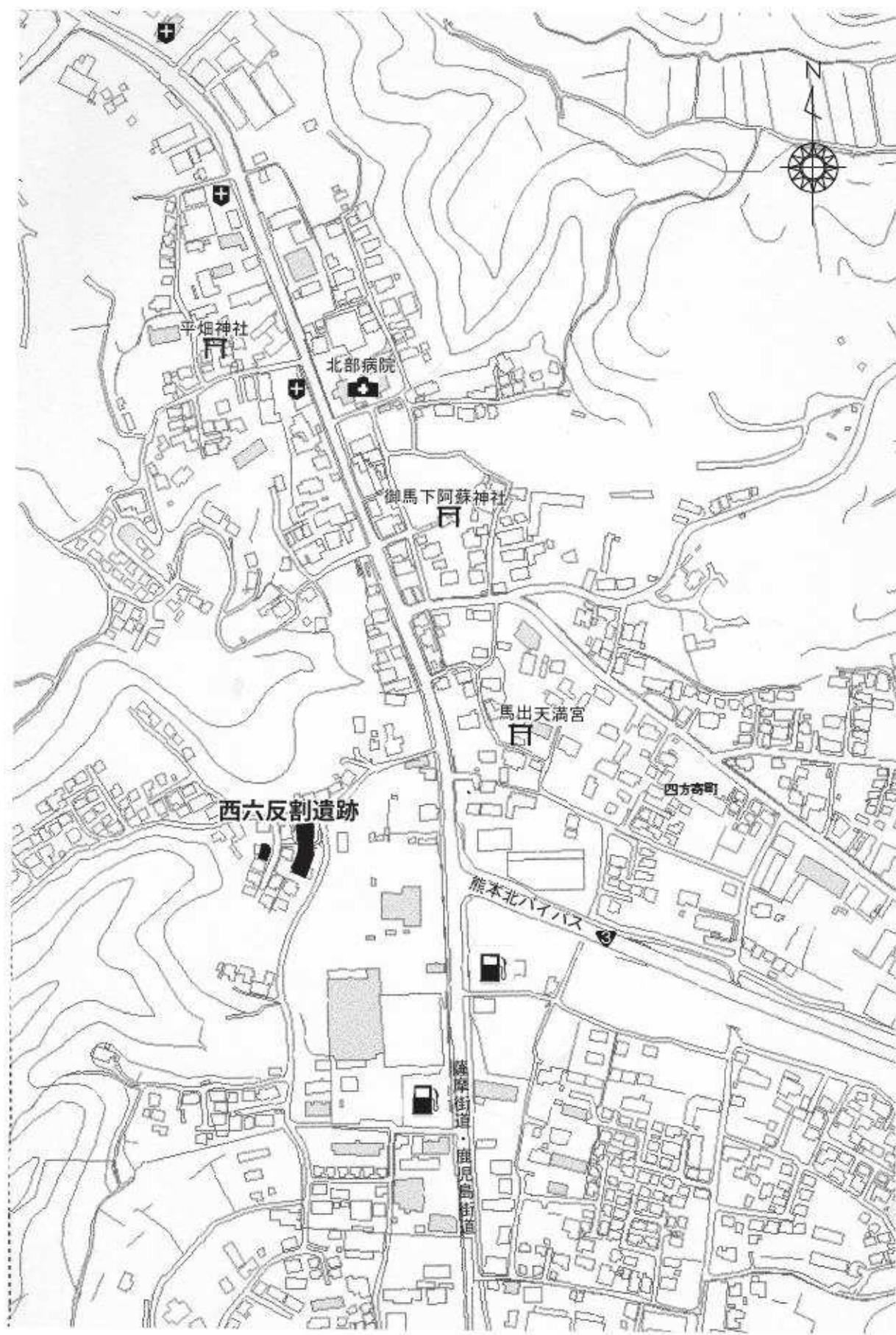
前期の遺跡は、坪井川流域に位置する黒髪町遺跡群で認められる。中期では万楽寺出口遺跡において竪穴建物跡、甕棺墓群が、五丁中原遺跡、白土遺跡、梶尾遺跡群などでも甕棺墓群が確認されている。後期になると、各河川流域の台地上に大規模な環濠集落が営まれ、九州内各地との交流を示す遺物が多く出土する。

古墳時代

飛田遺跡群に位置する羽山塚古墳は、昭和54年に住宅造成工事に伴い発掘調査が行われた。その結果、5世紀中葉の円墳で直径39～41m、周溝の外側では直径52mに及び、周辺では方形周溝墓も検出された。また、崖面には梶尾横穴群、竹の下横穴群、六反畠横穴群などが分布するほか、田端窯跡や山川窯跡群などの須恵器窯跡も見られる。



第1図 熊本県域における西六反割遺跡の地形図（縮尺任意）



第2図 西六反割遺跡位置図 S=1/5000



第3図 西六反割遺跡周辺遺跡地図 S=1/25000

表 1. 周辺遺跡地名表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備 考
017	北迫筒井横穴群	北迫町筒井	古墳	古墳		
018	北迫川底遺跡群	北迫町北迫	弥生～中世	包藏地		(旧) 北迫河底遺跡・筒井前遺跡
023	崩平横穴群	和泉町崩平	古墳	古墳		横穴 2 基以上、1 号 (床面台形)、2 号 (床面楕円形)
024	赤水城跡	和泉町崩平	中世	城		(旧) 崩平古墳 古墳を利用した高台に城
028	五丁中原遺跡群	貢町字馬場・三つ塚	旧石器～弥生	包藏地		(旧) 五丁中原遺跡・赤水 A 遺跡・赤水 B 遺跡 弥生後期繩濠集落調査、縄文晚期住居跡調査、巴形銅器
030	扇田横穴群	貢町扇田	古墳	古墳		横穴 7 基
031	釜尾古墳	釜尾町同免	古墳	古墳	国	裝飾壁画古墳
032	橋口古墳	釜尾町橋口	古墳	古墳		
035	宝出原	改寄町	縄文～中世	古墳		
036	松尾原横穴群	改寄町	古墳	古墳		3 基
037	井上横穴群	改寄町城が下	古墳	古墳	市	7 基
038	井上城跡	改寄町井上	中世	城		
039	小糸山遺跡群	小糸山町居屋敷	縄文～中世	包藏地		(旧) 小糸山遺跡・小糸山居館跡・小糸山追分石・寄鶴官軍墓地
040	明徳官軍墓地	明徳町上市原	明治	墓地	県	西南戦争官軍墓地
041	楠野遺跡群	楠野町	中世	包藏地		(旧) 楠古関遺跡・楠原城跡 楠原城は鹿子木貞教の築城、鹿子木氏の居城
042	平井宮庚申塔	楠野町城ヶ下	中世	包藏地	市	
043	宮ノ前横穴群	明徳町	古墳	古墳		10 基以上
044	宮ノ下横穴群	楠野町宮ノ下	古墳	古墳		
045	一町畠古墳	西桃尾町一宮畠	古墳	古墳		
046	伝鹿子木館跡	鹿子木町花の木	中世	包藏地		
047	硯川遺跡群	硯川・下硯川町	縄文～平安	包藏地		(旧) 北部中学校遺跡・田端遺跡・田端窯跡・十三郎塚板碑 板碑 (大永 4 年銘)、窯跡 (平安期?) 2 基以上
048	四方寄	四方寄町	縄文	包藏地		(旧) 村上屋敷板碑 縄文後期大集落、調査あり
049	六反畠横穴群	下硯川町	古墳	古墳		
050	城ヶ辻城跡	四方寄町城ヶ辻	中世	城		貝塚あり、城主は西平田常隆守
051	四方寄御馬場下	四方寄町御馬場下	縄文	包藏地		
052	御馬下の角小屋	四方寄町	江戸	建造物	市	細川、島津の参勤交代休憩所
053	四方寄六地蔵・庚申塔	四方寄町外屋敷	中世	石造物	市	地蔵文明年間、九州でも希有の塔、庚申天和元年銘
054	柚ノ木遺跡	硯川町市迫	縄文 古墳	包藏地		(旧) 柚ノ木箱式石棺群 縄文後期土器、石棺数基
055	一町畠横穴群	硯川町市迫	古墳	古墳		
056	山川窯跡群	下硯川町	古代	生産		須恵器
057	鶴煙古墳参考地	下硯川町	古墳	古墳		
058	豆尾横穴群	硯川町東屋敷	古墳	古墳		須恵器壺
059	黒井横穴群	硯川町黒井	古墳	古墳		
060	坂下遺跡群	硯川町北井川谷	弥生・古墳	包藏地		(旧) 坂下 A～C 遺跡 坂下 A・B 銀棺出土、坂下 B 遺跡あり
061	坂下 A 横穴群	下硯川町	古墳	古墳		5 基以上
062	坂下 B 横穴群	下硯川町	古墳	古墳		玄室プランが長方形
063	狩井横穴群	下硯川町狩井	古墳	古墳		数基
064	白土遺跡	貢町白土	弥生	埋葬		甕棺数基出土
065	辻横穴群	四方寄町辻	古墳	古墳		
066	飛田遺跡群	飛田町塔の木など	縄文・古墳	包藏地		(旧) 飛田塔の木遺跡・飛田上ノ原遺跡・飛田葉山塚古墳 葉山古墳調査報告書あり
067	清水町遺跡群	清水町山室など	縄文・古墳	包藏地		(旧) 楠山 A～C 遺跡・山室 A 遺跡・山室打出 (山室地頭)・屋敷遺跡・ 八景水谷遺跡・八景水谷甕棺群・山室東屋敷阿弥陀堂墓碑 楠山甕棺群・山室甕棺・土師器・八景水谷縄文前後晩・甕棺

表2. 周辺遺跡地名表

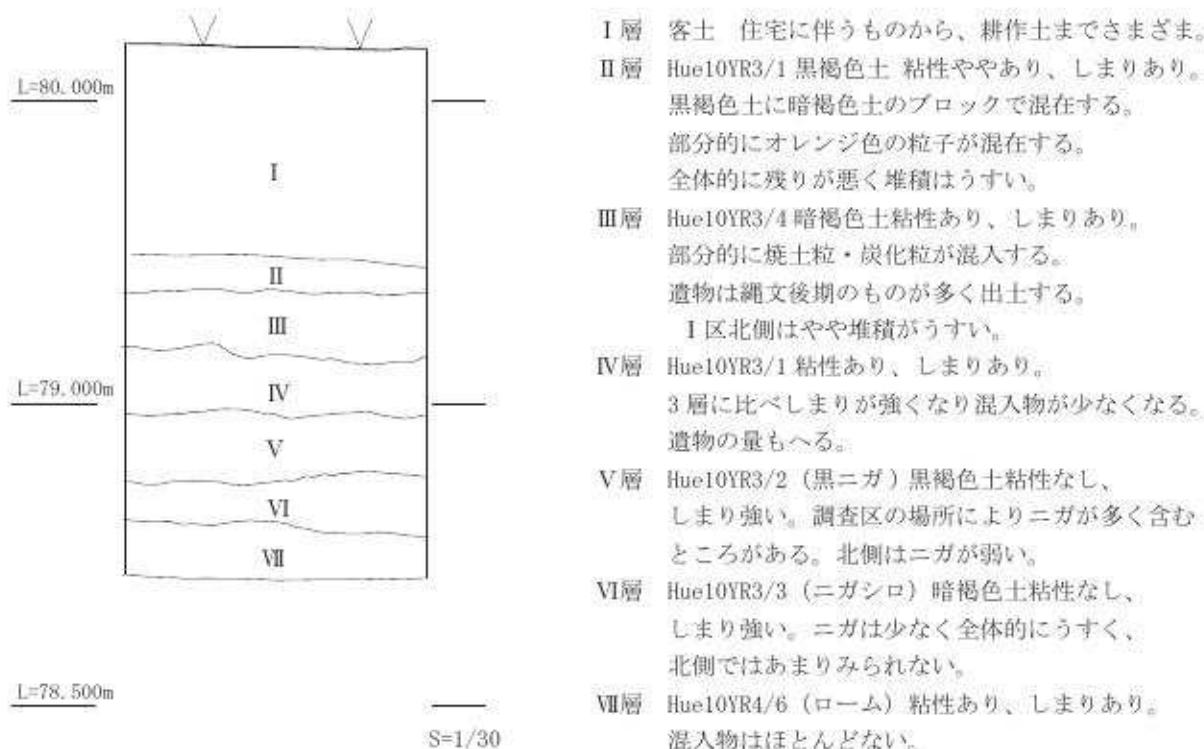
遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
068	徳王	徳王町ほか	縄文～平安	包蔵地		(旧)徳王寺跡・徳王寺跡板碑・徳王の桜(市指定天然記念物) 縄文後期、弥生内行花文鏡出土
069	立石遺跡群	改寄町	縄文～平安	包蔵地		(旧)立石駅前参考地、伝郡界標立石
070	宮尾横穴群	明徳町宮尾	古墳	古墳		9基以上
071	八幡谷横穴群	明徳町八幡谷	古墳	古墳		
072	射の馬場横穴群	大鳥居町射の馬場	古墳	古墳		10基以上、1基調査
073	大鳥居遺跡群	大鳥居町	縄文～中世	包蔵地		(旧)大鳥居遺跡・井出原獣房参考地
074	梶尾横穴群	梶尾町宮の本	古墳	古墳		
075	梶尾遺跡群	梶尾町中尾原	弥生	包蔵地		(旧)甲佐大明神遺跡 弥生中期～後期の土器、大明神壺棺群
076	梶尾古閑原・古屋敷	梶尾町古閑原など	縄文～中世	包蔵地		(旧)梶尾谷山お茶屋跡
077	梶尾立野	梶尾町立野	縄文～中世	包蔵地		
078	鶴羽田(鶴の原・垣の外)	鶴羽田町	縄文～古墳	包蔵地		縄文晩期土器・先端を失った銅戈 工事中に出土 H22.7.22範囲修正
079	鶴羽田かぶと塚古墳	鶴羽田町かぶと塚	古墳	古墳		円墳
080	竹の下横穴群	鶴羽田町竹の下	古墳	古墳		
081	山際畠	鶴羽田町	縄文～中世	包蔵地		
086	岩倉山中腹	清水町鬼谷	縄文～中世	包蔵地		
407	尾当阿弥陀堂板碑	改寄町飼根	中世	石造物		天文16年
408	楠野かぶと塚古墳	楠野町宮下	古墳	古墳		円墳
409	古墳参考地	楠野町宮下	古墳	古墳		台地の下、水田中に小円墳状の封土あり
410	舞踏塚記碑	北迫町舞足	中世	石造物		名民政官であった鹿子木量平の顕彰碑である
412	花の木觀音堂板碑	鹿子木町鹿子木	中世	石造物		残欠、永正13年銘
413	半田天神板碑・石仏	四方寄町宮の跡	中世	石造物		板碑大永6年銘
414	古代官道	鶴羽田町上の原	古代	包蔵地		
415	須屋園觀音堂板碑	清水町八景水谷	中世	石造物		
416	八景水谷塔の本五輪 残欠	清水町八景水谷	中世	石造物		
417	吉次往還追分け石	下硯川町横町	近世	石造物		
418	大窪五輪塔	清水町大窪	中世	石造物		
419	大窪高笠觀音堂前板碑	清水町大窪	中世	石造物		
423	西浦阿弥陀堂碑	貢町	中世	石造物		天文16年銘
424	岩下御茶屋跡	貢町寺の前	近代	石造物		
425	五丁中原阿弥陀堂板碑	貢町五丁屋敷	中世	石造物		3基大永8年、享禄4年、天文6年
426	放牛地蔵	下硯川西屋敷	近世	石造物		30体
427	浦郷地蔵板碑	庄町浦郷	中世	石造物		大永6年銘
429	仁王堂板碑	大夢尾	中世	石造物		天文2年銘
927	西六反割遺跡	四方寄町	縄文	包蔵地		縄文後期～晩期の土器

第3章 調査の成果

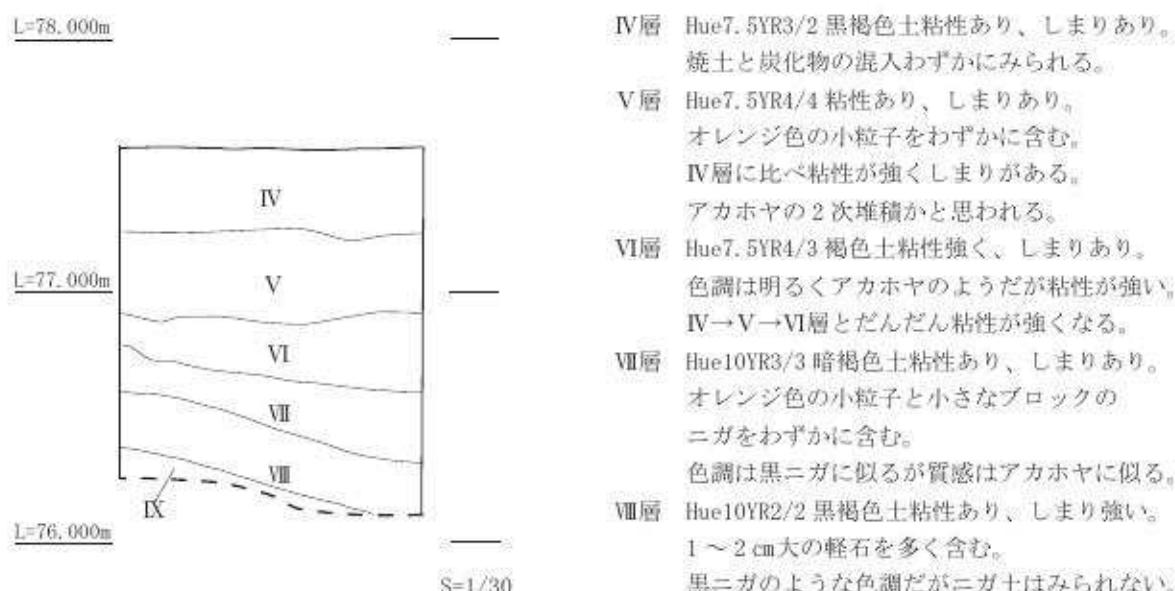
第1節 調査地の基本土層

層名は、上層からローマ数字を用いて「I層」「II層」「III層」と表記している。

西六反割遺跡の基本層序は次のとおりである。



第4図 西六反割遺跡I区基本土層図

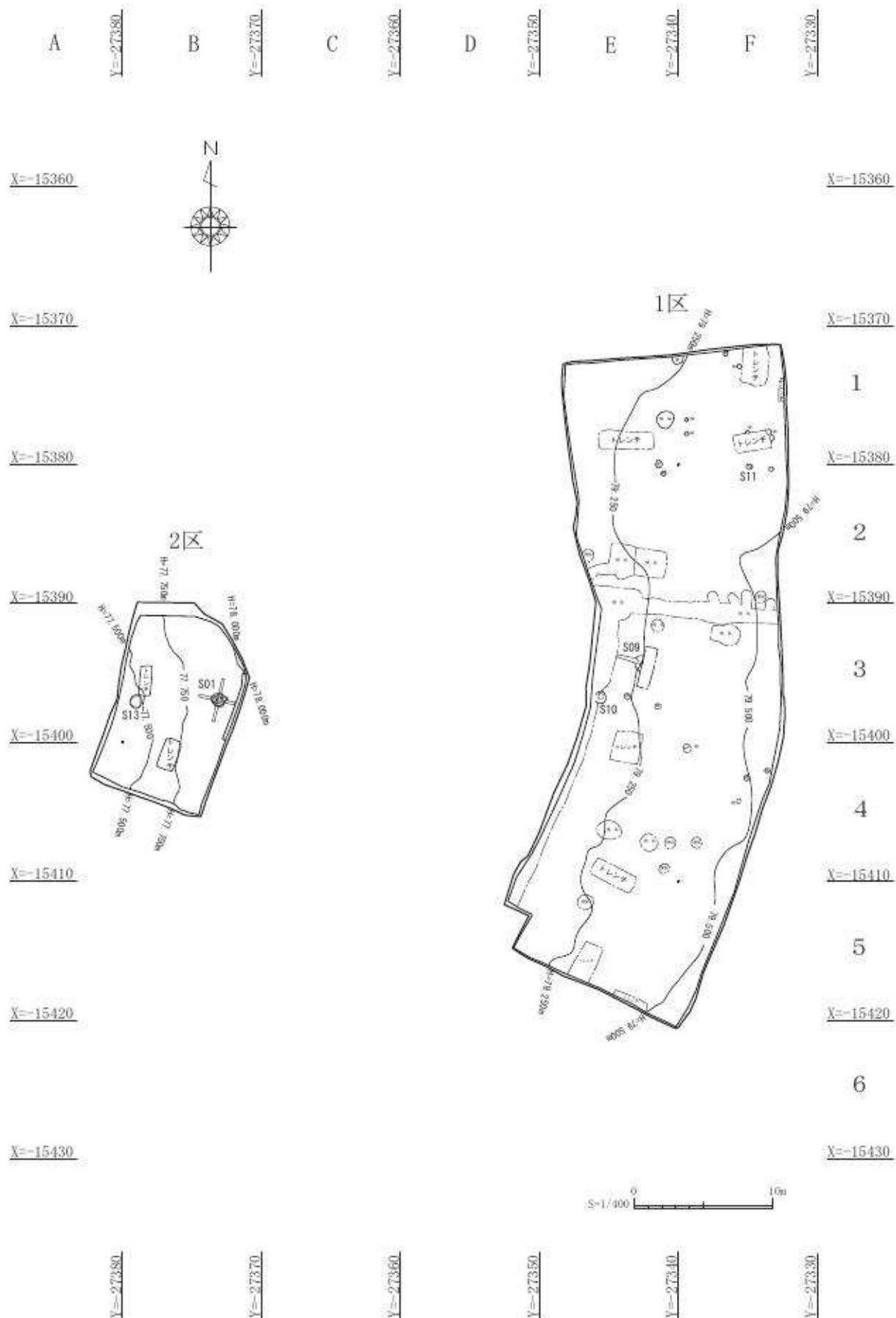


*IV～VII層まではアカホヤの2次堆積と思われる。

2区の基本土層はIV層から下が1区と異なる。

これは土石流により当時堆積していた土が流され
再堆積した土が現在の層である。

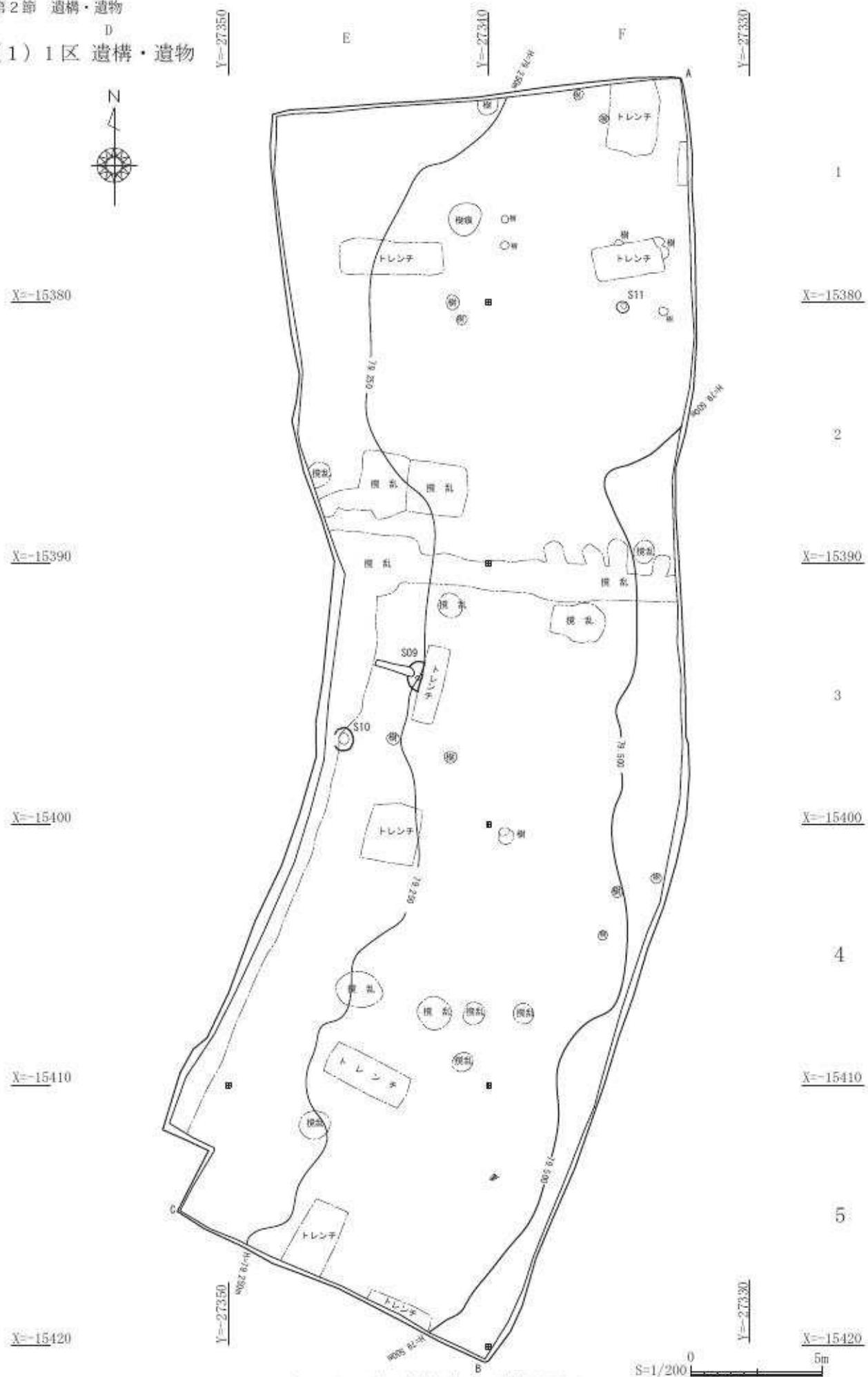
第5図 西六反割遺跡2区基本土層図



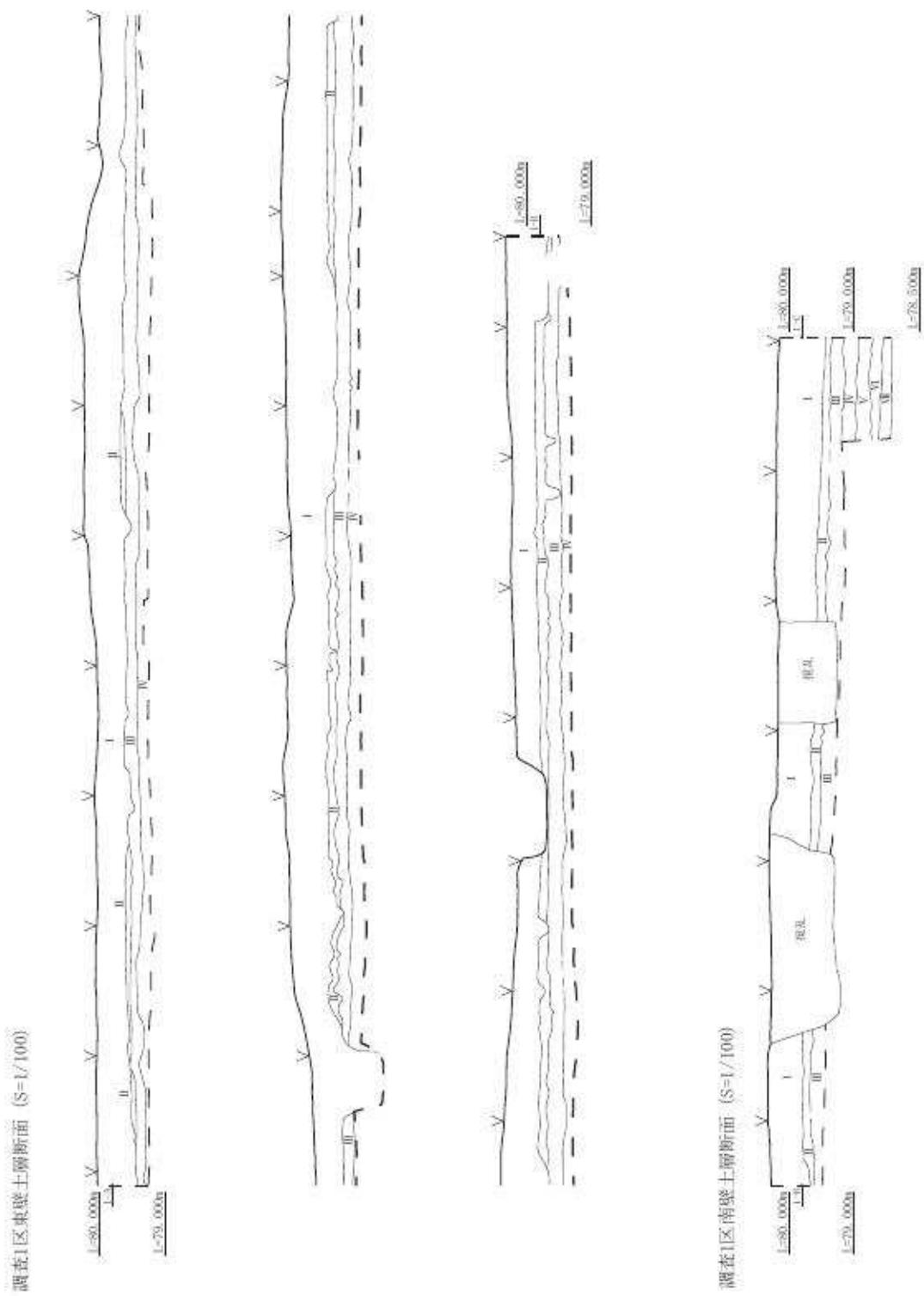
第6図 西六反割遺跡全体図 S=1/400

D

(1) 1区 遺構・遺物



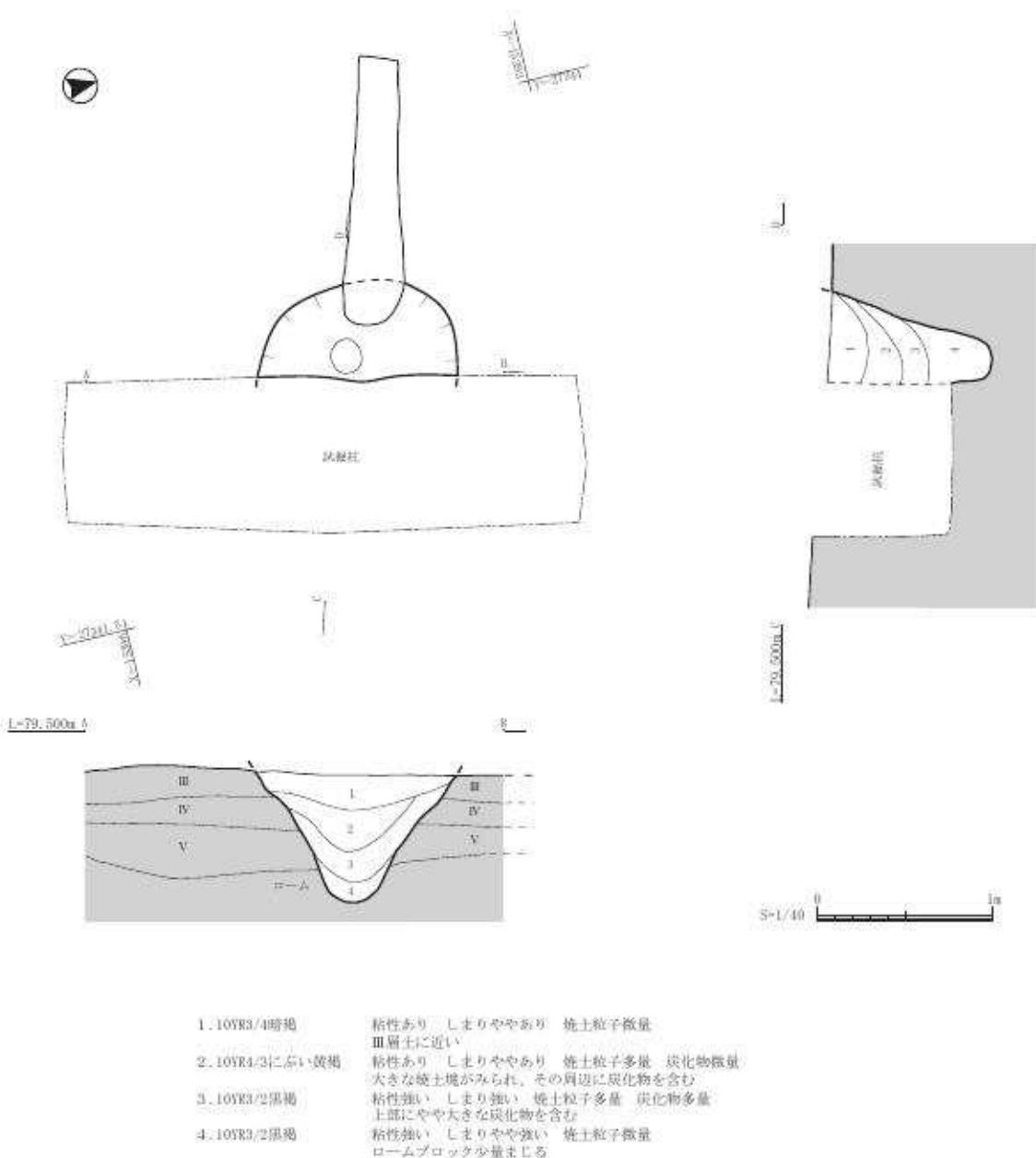
第7図 西六反割遺跡1区遺構配置図



第8図 西六反削造跡1区東壁及び南壁土層断面図

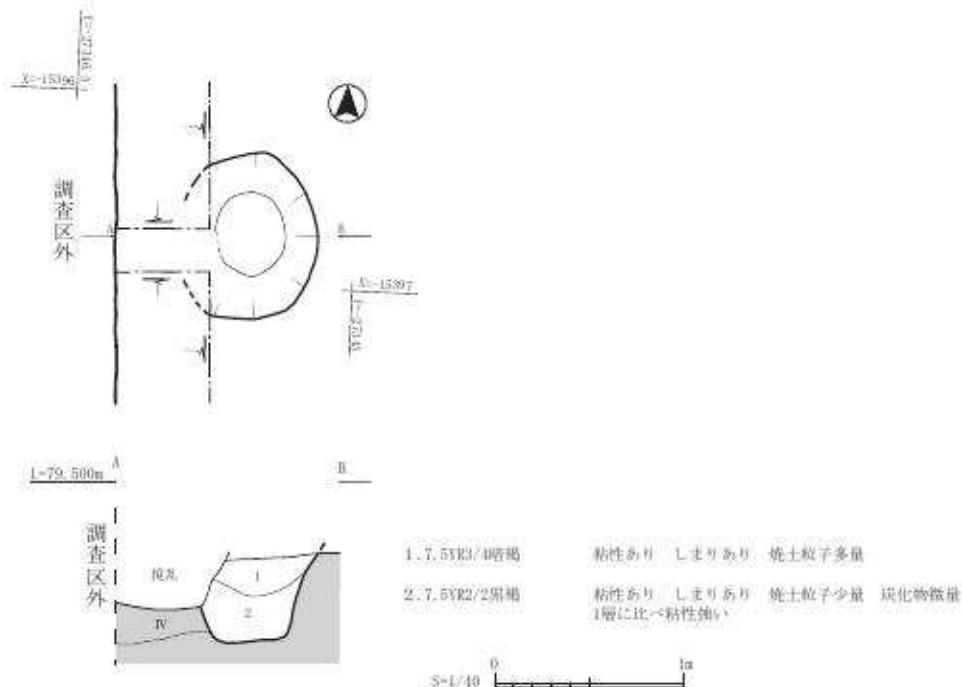
土坑 S09 1区 E-3 グリッドで検出した土坑で、長軸 57.5 cm、短軸 27.0 cm、深さ 31.0 cm を測る。この遺構は、試掘坑にかかっていたため、検出時から土層断面が確認できる状況にあった。埋土中央に大きな焼土塊が確認でき、周囲にも焼土粒が見られた。そのため、この遺構内で火を焚く行為があつた可能性を視野に入れ掘削を行ったが、埋土に焼土が混じるのみで遺構の壁も床も火を受けたような痕跡は確認できなかった。

出土遺物は、縄文土器が数点出土しているが、遺構の時期は不明。



第9図 西六反割遺跡 1区土坑 S09 平面・断面図

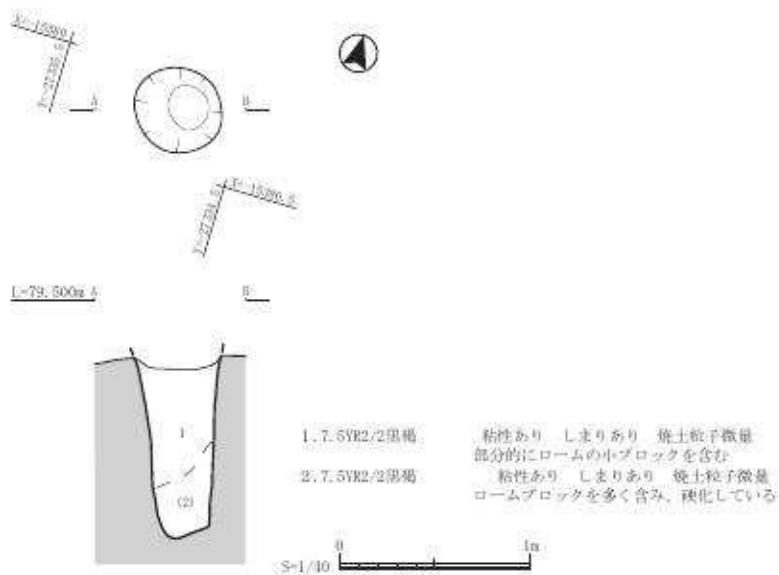
土坑 S10 1区 E-3 グリッドで検出した土坑で、長軸 88.0 cm、短軸 56.0 cm、深さ 44.0 cmを測る。遺構西側をカクランに切られている。西側のカクランには焼土粒が多く見られ、その影響も考えられる。底部は樹根の影響を受けている。遺物は出土しておらず遺構の時期は不明。



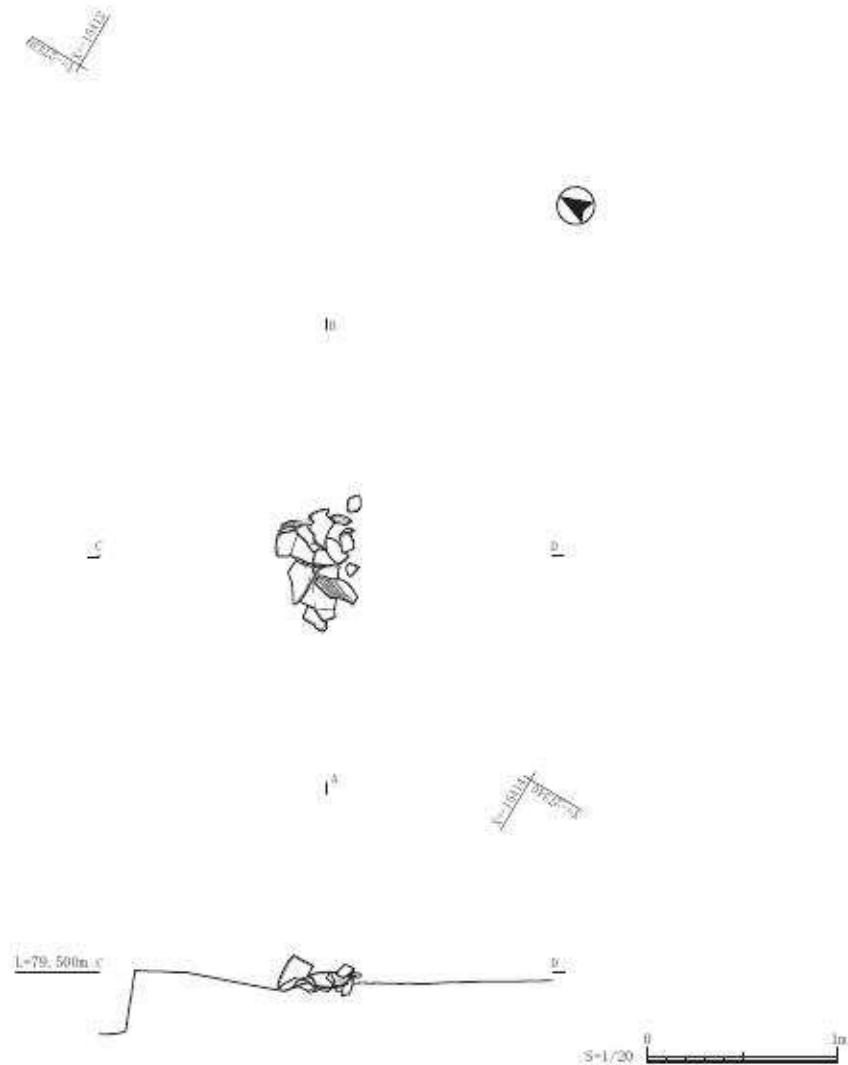
第10図 西六反割遺跡1区土坑S10平面・断面図

土坑 S11 1区 F-1・2 グリッドで確認した土坑で、長軸 46.0 cm、短軸 45.0 cm、深さ 96.0 cmを測る。検出時は、楕円形のプランで安定していたが、掘り進めるに連れて段々と歪になり始めた。埋土にもローみが多く混入し埋土は乱れている。

出土遺物は、土器の小破片が数点のみで時期の断定はできなかった。



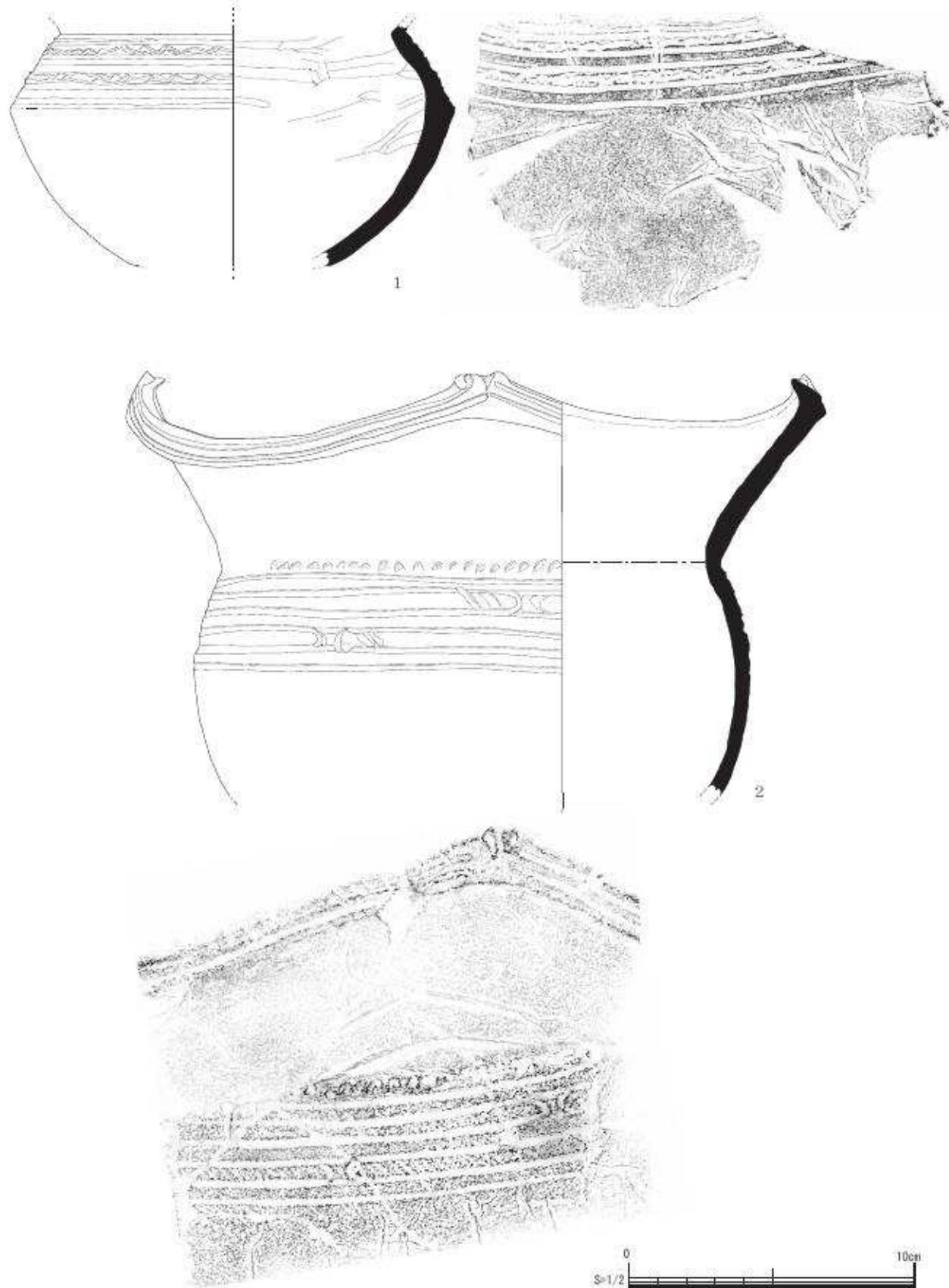
第11図 西六反割遺跡1区土坑S11平面・断面図



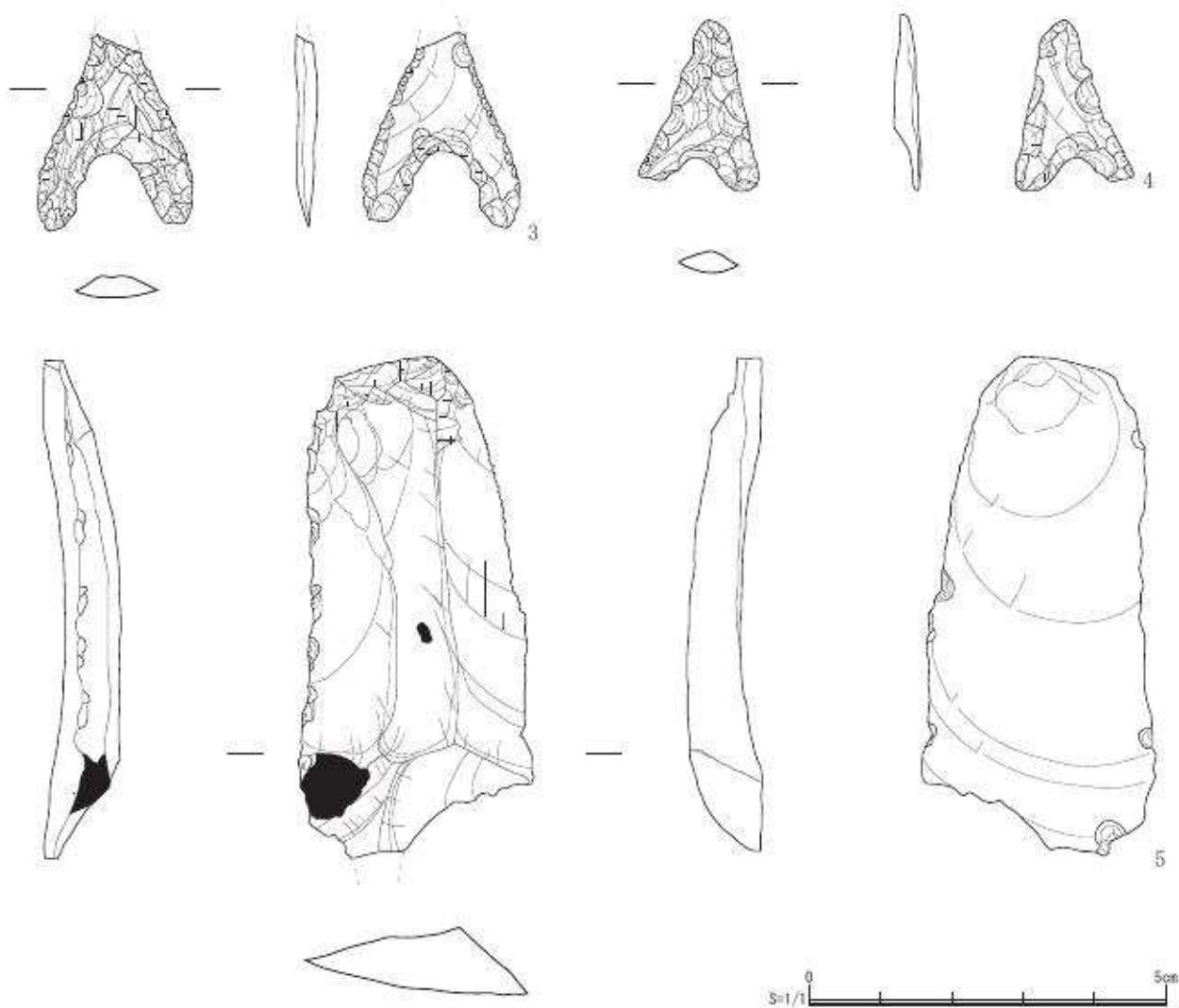
第12図 西六反割遺跡1区F-5Grid遺物出土状況

(遺物)

西六反割遺跡では、Ⅱ層及びⅢ層から縄文時代後晩期を中心とした縄文土器・石器・石斧が出土した。遺物実測図。観察表を以下に示す。



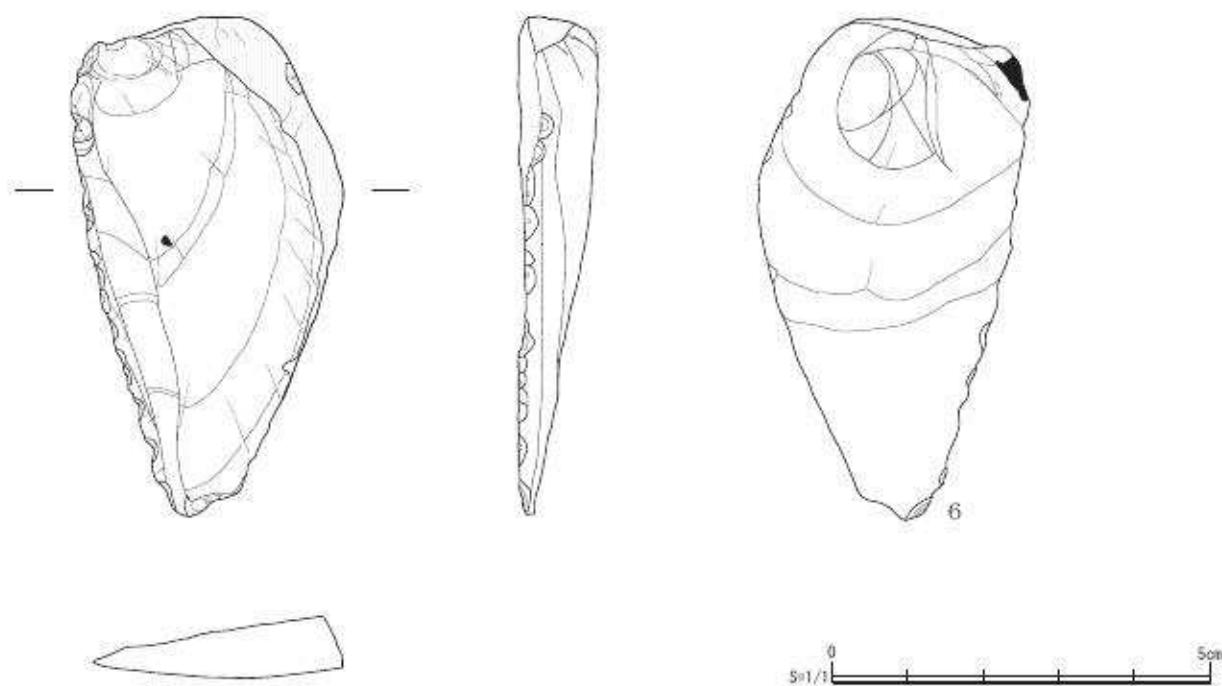
第13図 西六反割遺跡出土遺物実測図—①



第14図 西六反割遺跡出土遺物実測図一②

遺物番号	図版番号	写真図版番号	調査区	遺構番号	層位	種別	器種	法量(cm)				色調 外面
								口径	低径	最大胴径	器高	
1	第13図	卷頭図版 図版29	1区	S09	埋土2層	縄文土器	深鉢	—	—	14.4	(8.25)	7.5YR6/4にぶい橙
2	第13図	卷頭図版 図版29	1区	E-5Grid	II層	縄文土器	深鉢	24.4	—	19.3	(14.9)	7.5YR4/1褐灰

遺物番号	図版番号	写真図版番号	調査区	遺構番号	層位	種別	器種	法量				
								最大長(cm)	最大幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	
3	第14図	卷頭図版 図版30	1区	E-3Grid	田層	石器	石鏟	2.75	2.1	0.3	1.5	
4	第14図	卷頭図版 図版30	1区	E-5grid	田層	石器	石鏟	2.4	1.65	0.35	0.9	
5	第14図	卷頭図版 図版31	1区	E-4grid	田層	石器	使用痕剥片	7	3.2	0.9	20.2	
6	第15図	卷頭図版 図版31	1区	E-5grid	田層	石器	使用痕剥片	(6.6)	-3.3	1	22.1	



第15図 西六反割遺跡出土遺物実測図一③

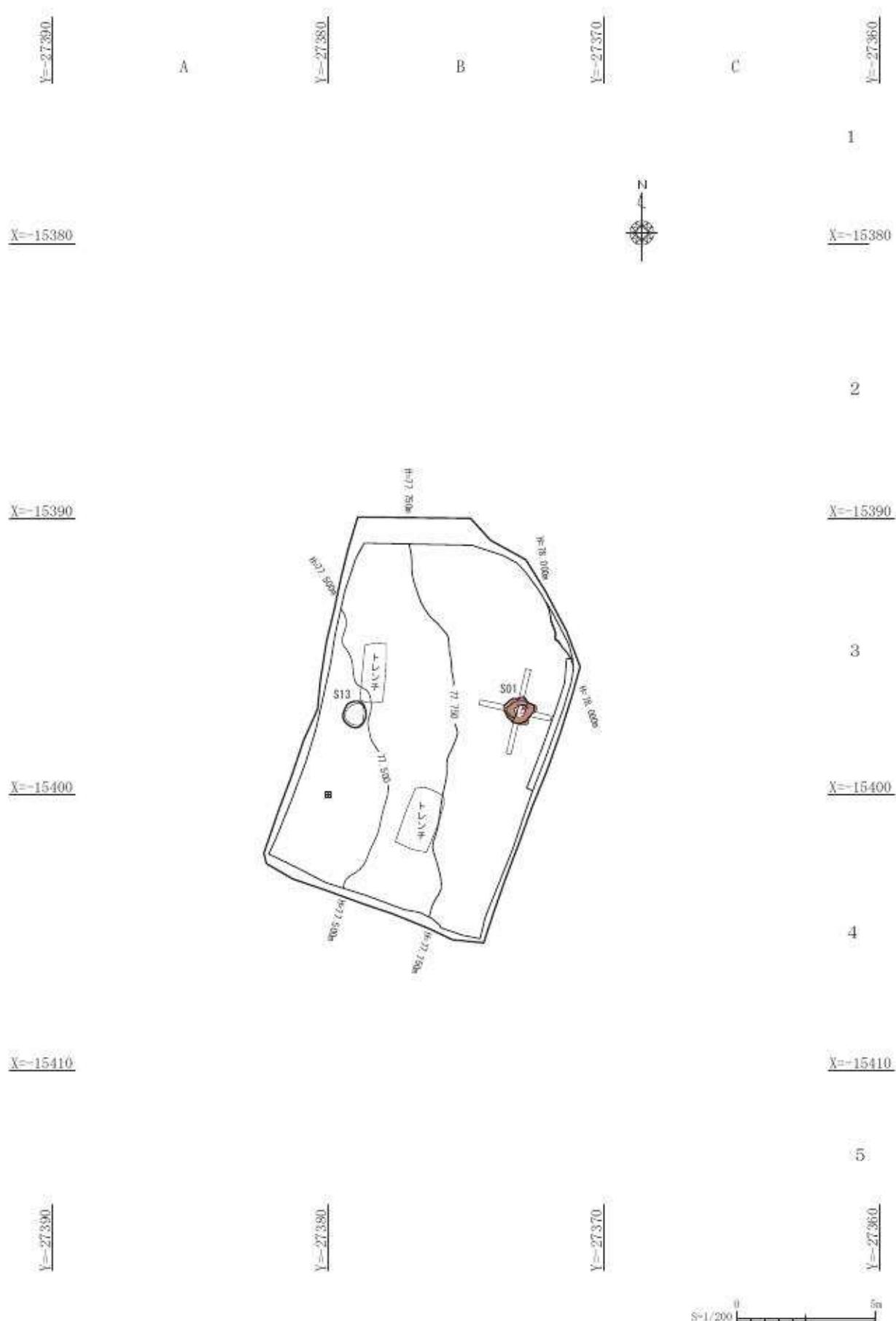
表4. 出土遺物観察表（土器）

色調	胎土	調整				備考	遺物番号
		外器面	内器面	外底面	内底面		
10YR6/4にぶい黄橙 2.5YR3/2黒褐	長石・角閃石・ 雲母	3条の凹線文と2条の波状文	ヘラミガキ	ミガキ	ヘラミガキ	辛川Ⅱ	1
7.5YR4/2灰褐	長石・角閃石・ 赤色酸化粒	口縁部2条の凹線4か所に凹線文胴部 ほぼ等間隔に6条の凹線8箇所にX状 の凹線文	ミガキ	ミガキ	ミガキ	太郎迫	2

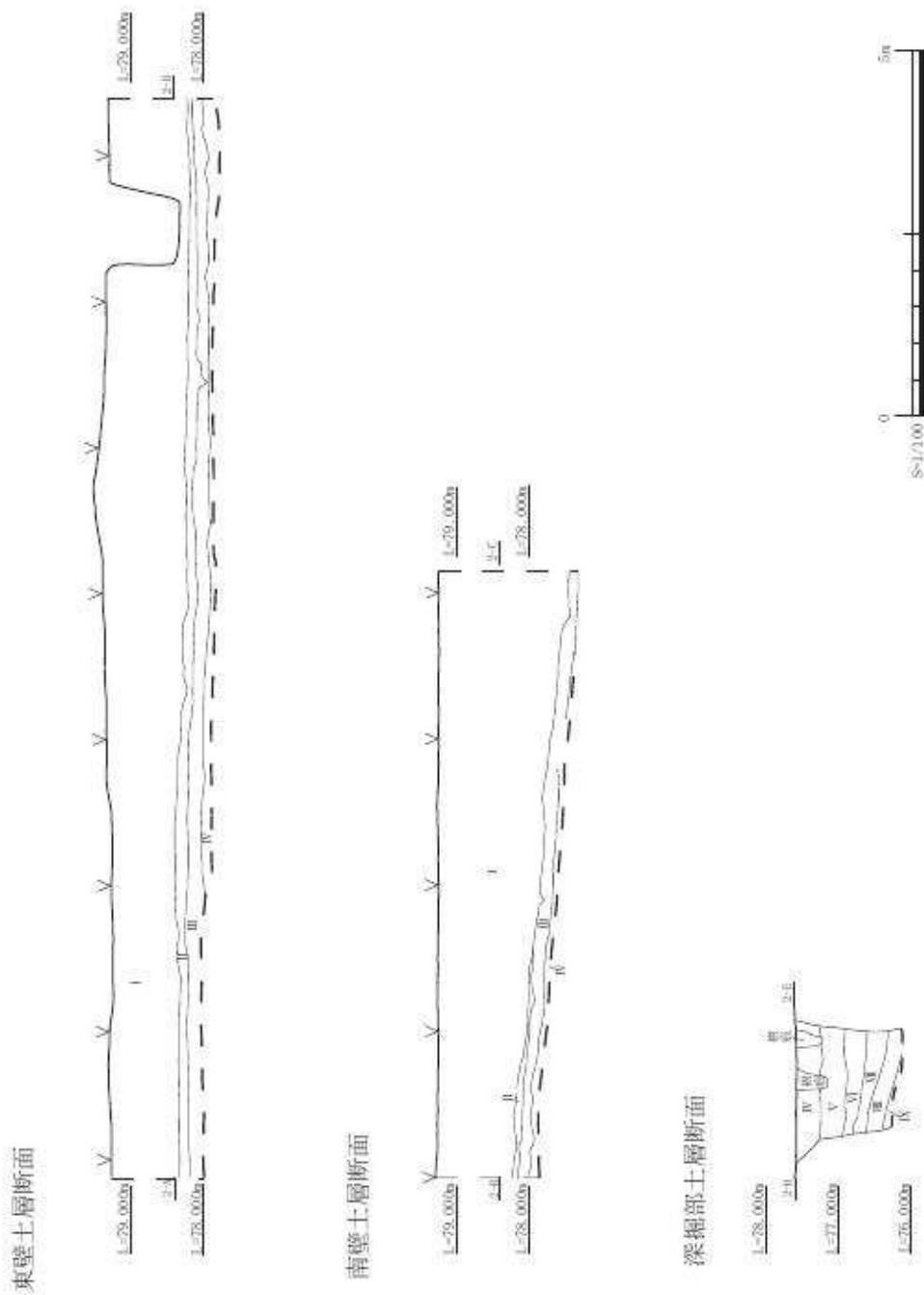
表5. 出土遺物観察表（石器）

色調	石材	備考	遺物番号
7.5Y4/1オリーブ黒	安山岩	石鏃を新たに再加工したものと思われる	3
7.5Y6/1灰			4
7.5Y3/1オリーブ黒	安山岩		5
7.5Y3/2オリーブ黒			6

(2) 2区遺構



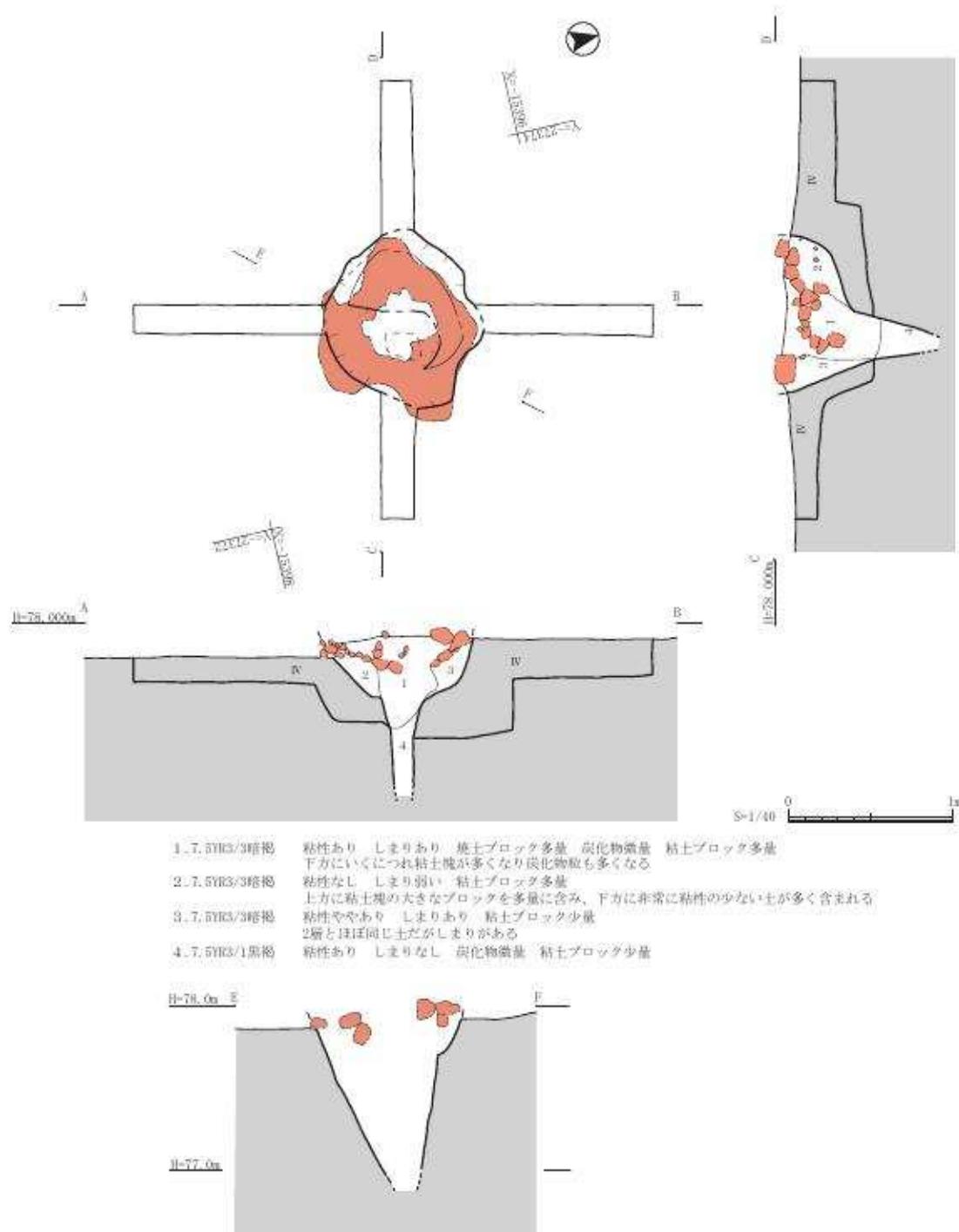
第16図 西六反割遺跡 2区遺構配置図 S- = 1/200



第17図 西六反割遺跡2区 東壁及び南壁、深掘部土層断面図 S=1/100

土坑 S01 2区B-3グリッドで検出した土坑で、長軸 108.0 cm、短軸 95.0 cm、深さ 88.0 cmを測る。表土剥ぎ直後から、この遺構周辺では焼土粒が多く見られた。しかし、プランは確認できなかつたため、掘下げていくと徐々に焼土塊は大きくなり集中する部分が確認できた。裁ち割り土層を確認すると、粘土塊は上部に集中するが密ではなく、間に土が入る。また、火を受けている方向が一様でなく統一感がない。そのため、遺構内で火を炊き、粘土を焼成したとは考えにくく、別の場所で焼成した粘土塊を入れたと考えられる。そのため、中央に柱状の掘り込みがあり、それを支え、固定するために粘土塊が入れられたと判断した。

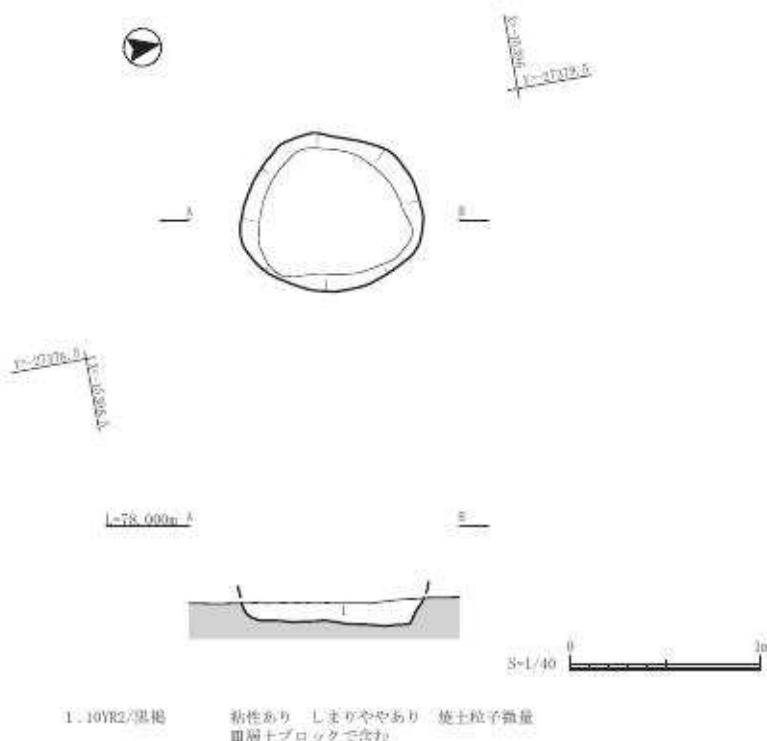
出土遺物は、遺構に伴うものは土師器小破片のみであるが、遺構時期に伴うものではないと判断した。



第18図 西六反割遺跡2区 土坑S01 平面・断面図

土坑 S13：2区B-3グリッドで検出した土坑で、長軸96.0cm、短軸84.0cm、深さ14.0cmを測る。黒褐色土、Ⅲ層がブロック的に入る。Ⅰ層（客土）直下での検出であり、今回の調査で最もはつきりと立ち上がりの確認できた遺構である。検出面からの掘り込みは浅い。埋土は単層で堆積状況は安定していた。

出土遺物は、土器の小破片が数点のみ出土したが、時期を判断することはできなかった。



第19図 西六反割遺跡2区土坑S13平面図・断面図

第4章 総括

第1節 検出遺構について

今回の調査では、5基の土坑状遺構を検出した。S10・S11・S13については遺構内から遺物が少量出土しているがいずれも小破片であることから、出土遺物から時期を推定することは出来ていない。

しかし、暗褐色～黒色土を呈する土が遺構埋土を形成していることから、本県台地上に普遍的にみられる縄文後期以降～概ね古代までの時期を示すものと考えられる。時期の推定はここまで留めておく。

いずれにせよ、当該事業地において、土坑状遺構を有する遺構を確認できたことは隣接する飛田遺跡群と併せて遺跡を評価する上でまた、土地利用の変遷を知る上で重要な意味を持つと考えられる。

第2節 出土遺物（土器）について

1区出土遺物は、小破片で縁辺部が磨滅したものが多く図示できるのは限られたが以下の2点について時期編年を含め報告する。

1は縄文後期の辛川II式土器の深鉢であり、2は縄文後期後半に想定される西平式土器の深鉢と考えられる。いずれの土器も、完形に近く残りが良い。1は、胸部が特徴的に屈曲し、胸部文様帶に沈線による連続三角様の施文を施す。屈曲部の文様帶は輪積みで破断しているため観察できない。2は、胸部文様帶内に沈線文、磨消繩文、X字の施文が明瞭に確認される。X字の施文がやや離れ、沈線文の弧状のカーブが緩やかになり直線気味であること、磨消繩文の施文がX字施文箇所のみに見られること、口縁部文様帶には磨消繩文が見られないことなどから、西平式のなかでも後出のもので、三万田式に移行する前段階と理解できる。1、2、何れも内面磨きが明瞭に観察され、磨滅をあまり受けていないことから、遺構に伴わないものの、隣接地に同時期の遺構が伴うものと理解できる。

第3節 西六反割遺跡の歴史的位置づけについて

今回の調査では同事業で調査を実施した飛田遺跡群で検出した台地縁辺部に遺物包含層があり、遺構が検出されていないことはこれ自体が、同遺跡の台地上での土地利用のあり方を示す意味を持つものと考えられる。

台地中央部で確認した飛田遺跡群（同国土交通省事業による調査）の遺構群の遺跡のあり方も含め遺跡全体の様相を明らかにすることができたのではないかと考える。

同調査区では遺構には伴わないが、器種を復元することができ、当初は完形であった遺物（土器）が台地縁辺部上で出土していることから、飛田遺跡群の範疇として遺跡形成をとらえ、台地縁辺部における行動痕跡としてとらえることができた。また、飛田遺跡群で確認された竪穴建物群とセットで考えた際には、当該地の立地を勘案すると同遺跡の西側に位置する金峰山三の岳を起源とする硯川との関係も遺跡を理解する上で重要な検討事項となる。

今後、周辺の遺跡から見えてくる情報を基にした歴史地理の観点、隣接地での調査事例等を重ねることで本課題も明らかになってくるのではないかとも考えられる。

【引用・参考文献】

- 「ワクド石遺跡」「熊本県文化財調査報告書第144集」 熊本県教育委員会 1994
- 「新熊本市史 通史編 第1巻 自然・原始・古代」 新熊本市史編纂委員会 1998
- 「発掘調査のてびき」 文化庁文化財記念物課監修 同成社 2010
- 「飛田遺跡群1」「熊本県文化財調査報告書第315集」 熊本県教育委員会 2015
- 「飛田遺跡群2」「熊本県文化財調査報告書第318集」 熊本県教育委員会 2016

写真図版

撮影機材：《遺構》

本体：Mamiya RZ67 Pro II

レンズ：ULD M50/4.52

ULD M65/4.0

《遺物》

本体：NIKON D810

図版 1



1.1 区完掘状況 N→



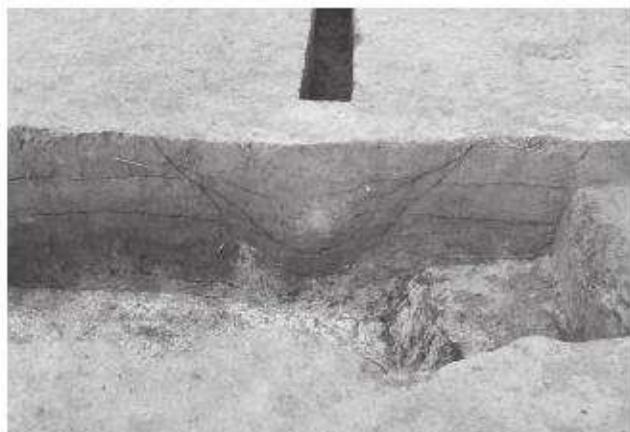
2.2 区完掘状況 N→



1. 1区調査区南壁土層断面 N→



2. 1区土坑 S09 検出状況 S→



3. 1区土坑 S09 土層断面 E→



4. 1区土坑 S09 土層断面 N→



5. 1区土坑 S09 遺物出土状況 N→

图版 3



1. I 区土坑 S09 遗物出土状况 N→



2. I 区土坑 S09 完掘状况 N→



3. I 区土坑 S10 检出状况 N→



4. I 区土坑 S10 检出状况 E→



5. I 区土坑 S10 土层断面 S→



6. I 区土坑 S10 完掘状况 E→



7. I 区土坑 S11 土层断面 S→



8. I 区土坑 S11 完掘状况 N→



1. 2区調査区南壁土層断面 N→



2. 2区焼土範囲検出状況 W→



3. 2区焼土範囲検出状況 N→



4. 2区土坑S01 焼土範囲検出状況 W→



5. 2区土坑S01 焼土範囲検出状況 N→

図版5



1. 2区土坑 S01 焼土範囲検出状況 W→



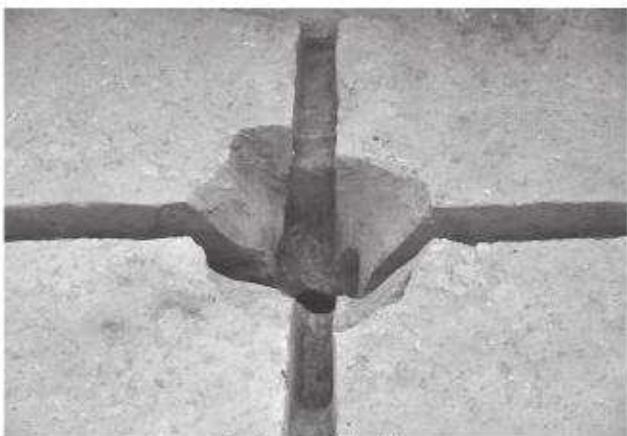
2. 2区土坑 S01 炉内掘削状況 W→



3. 2区土坑 S01 土層断面 W→



4. 2区土坑 S01 土層断面 N→



5. 2区土坑 S01 完掘状況 W→



6. 2区土坑 S13 検出状況 E→



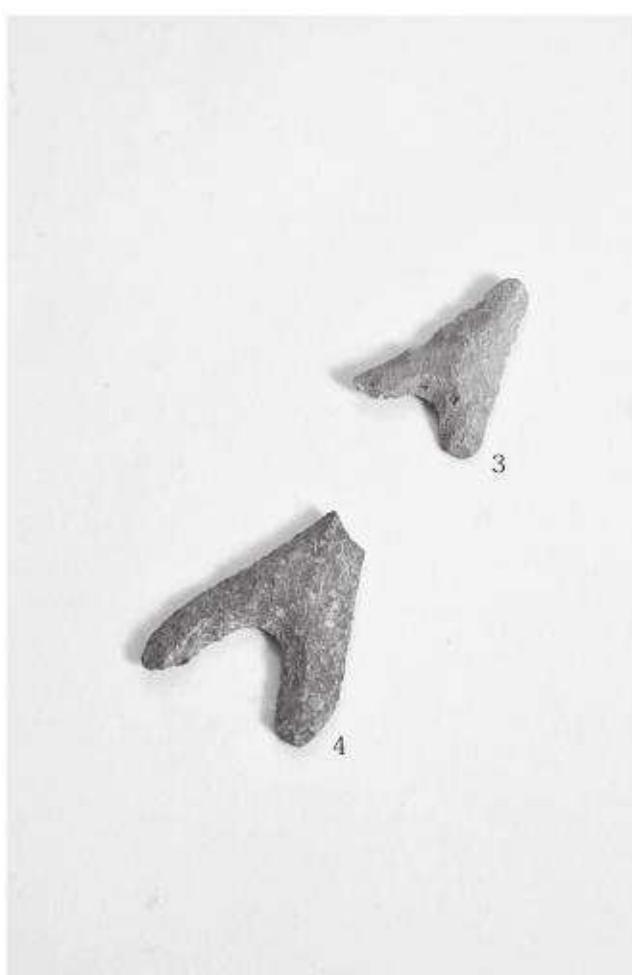
7. 2区土坑 S13 土層断面 E→



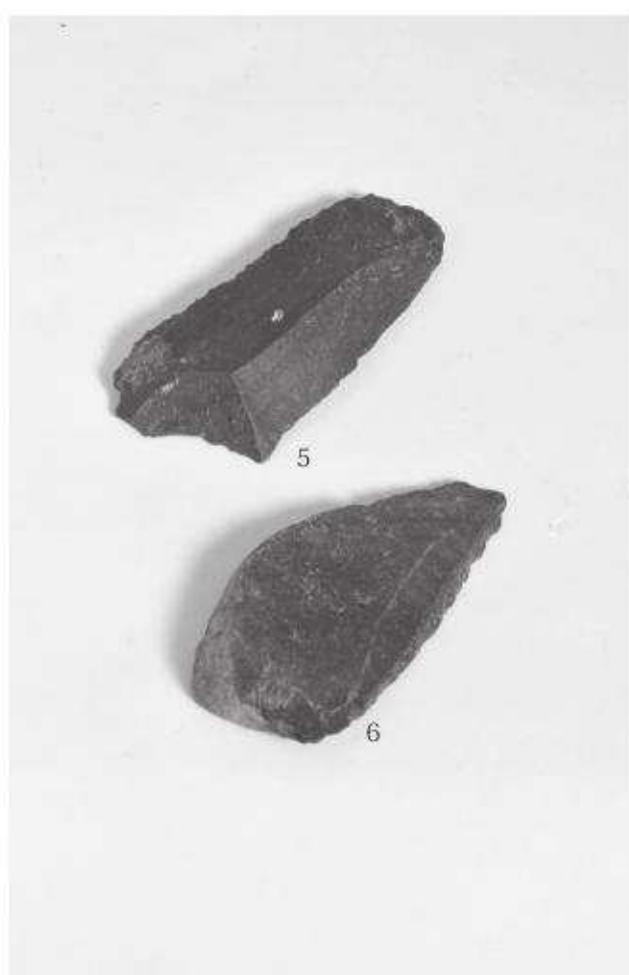
8. 2区土坑 S13 完掘状況 E→



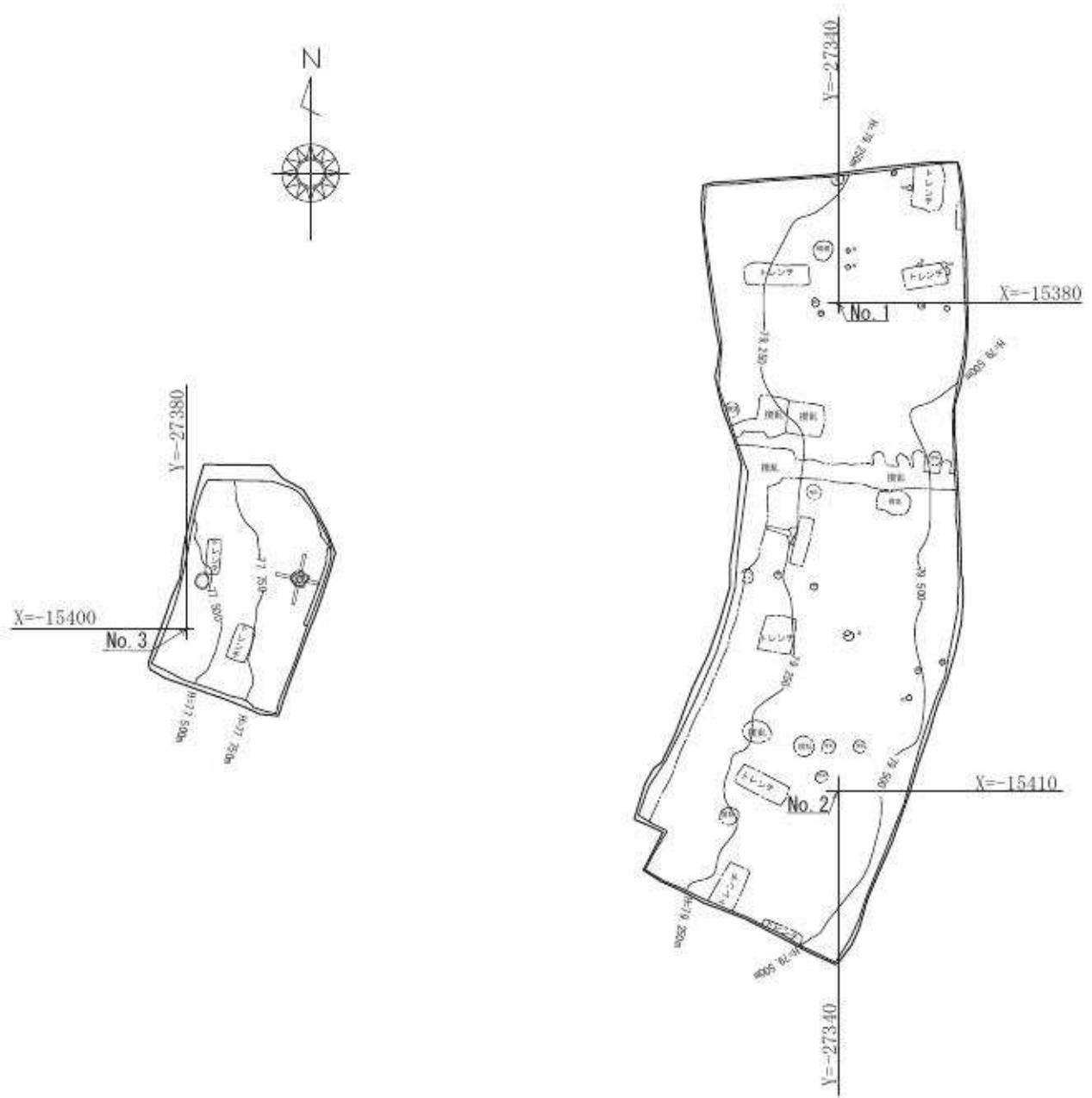
1. 1区土坑S09出土遺物（1）、F-5grid出土遺物（2）



2. 1区出土遺物（石鐵）



3. 1区出土遺物（石刃・削器）



第19図 西六反割遺跡座標測点図 S-1/400

報告書抄録	
ふりがな	にしろくたんわりいせき
書名	西六反割遺跡
副書名	一般国道3号植木バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第328集
編集者	伊藤精一
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
発行年月日	2018年3月31日
資料の保管場所	熊本県文化財資料室 〒861-4215 熊本市南区城南町沈目1667 Tel.0964-28-4933

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	No.1		2016.12.14～2017.2.28	1800m ²	一般国道3号植木バイパス改築事業					
にしろくたんわりいせき 西六反割遺跡	熊本県熊本市 北区四方寄町	43105	927	32° 51'	130° 51'								
				39.47626"	28.3379"								
				No.2									
				32° 51'	130° 42'								
				38.50234"	28.35599"								
				No.3									
				32° 51'	130° 42'								
				38.82338"	26.81632"								
所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項									
西六反割遺跡	縄文	土坑	縄文土器 石器	縄文時代後期～晩期の土器									

本誌の仕様

- ・版型 A4判
- ・頁数 52頁
- ・組版 13級 小塙明朝 or MS明朝
Adobe Indesign CS6 (For windows)
- ・印刷 オフセット印刷
- ・製版 本誌モノクロ及びカラー印刷写真はすべてスクリーン線数200線で製版
- ・用紙 表紙：アートポスト紙 220kg
見返し：上質紙 110kg
大扉・序文・目次等・本文・抄録・奥付：上質紙 110kg
巻頭カラー・写真図版等：特アート SA 金藤 4/6 135kg
- ・製本 糸かがり綴じ
- ・本誌加工 PP（ポリプロピレン）貼り

2018年3月31日 印刷

2018年3月31日 発行

熊本県文化財調査報告 第328集

西六反割遺跡

著作権所有 熊本県中央区水前寺6丁目18番1号

発行者 熊本県教育委員会

印刷所 熊本県中央区米屋町1-9

株式会社林田印刷

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第328集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：西六反割遺跡

発行：熊本県教育委員会

〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号

電話：096-383-1111

URL：<http://www.pref.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：西暦2019年8月30日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会

URL：<http://www.kumamoto-bunho.jp/>